

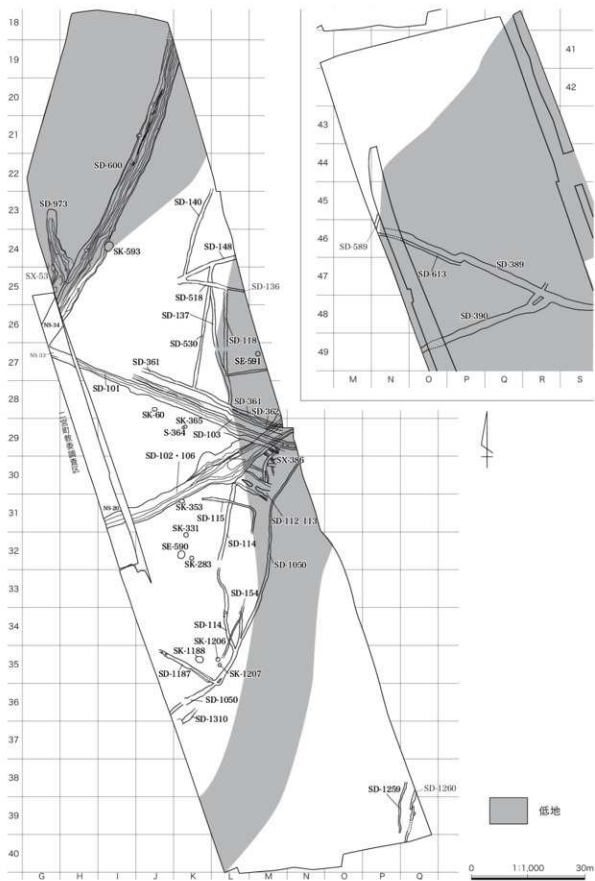
第3節 中世・近世の遺構と遺物

(1) 溝状遺構

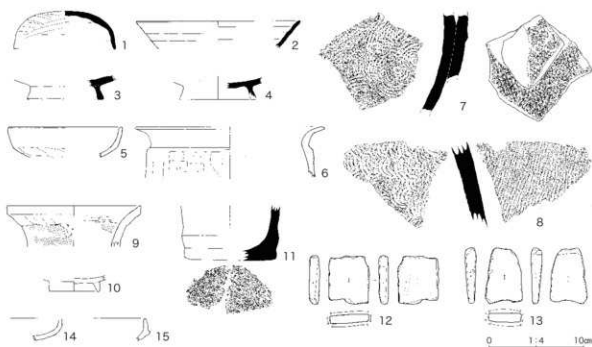
中世・近世の溝状遺構は27条確認されている。その多くが中央の低地Aよりも北側で確認された。このうち、出土遺物や切り合い関係から確実に中世・近世までさかのぼると考えられるものは、SD-101・102・106・600・1187・1050の5条である。溝状遺構は、深さが1m近い大規模なもの、と、細く浅いもの、とに大まかに分けられる。前者に含まれるもののうち、SD-101・102・106・600の3条は特に規模が大きく、中央の低地Aの北側でまとまって確認されている。SD-101と600は直交していることから、方形の区画を形作る溝である可能性も高い。遺跡の北側には中世城館である峰高城があったとされており、それに関わる遺構である可能性も考えられる。重複関係からSD-101が最も新しい溝状遺構と考えられるが、出土遺物は周辺住居跡から流れ込んだと考えられる土師器・須恵器の破片が中心で、SD-600から中世・近世の陶磁器が出土している以外には、当該時期の遺物はほとんど出土しなかった。また、細く浅い溝状遺構については、方向や覆土の特徴から、ほとんどが中世・近世に作られた地割を目的とした小規模な溝であると考え、この節で扱った。やはり低地Aの北側でまとまって確認されている。低地よりも南側で確認された溝状遺構は、道路状遺構の可能性が高いSD-1259・1260、低地Cの中で確認されたSD-389・390・613・589がある。低地Cの中で確認された溝は第5節低地の調査の中で扱っている。

SD-101・103・361・362 (第309・310図・図版三八・六一)

位置・重複関係 SD-101は調査区のほぼ中央に位置する溝状遺構で、幅は最も広い部分で2.8m、深さは約1mである。西側は二宮町教育委員会調査区（以下町調査区）まで伸びている（町調査番号S-33）。断面台形を呈するが、南側はややなだらかに立ち上がる。北側は南側よりも急な角度で立ち上がっている。西側の町調査区でSD-600溝状遺構（町調査番号S-34）と直交しており、SD-101の方が新しい。東側はSD-102・106と重複しており、SD-101の方が新しい。SD-103・361・362はSD-101と並走する極浅い溝状遺構で、SD-101溝状遺構とほぼ同時期のものと考えられる。いずれも調査区東側の削平部分で消滅しているため、SD-600溝状遺構との重複関係は不明である。覆土 SD-101の上層（1層）は内容物をあまり含まない暗褐色土、中層（2～4層）はローム粒を多量に含む暗褐色土を主体とする。しまりはいずれの層も弱い。下層はロームブロックをほぼ主体とする黄褐色土（5層）と、多量のロームブロックを含む黒褐色土（6層）が堆積している。6層は部分的にしか堆積していないごく薄い層である。砂質の堆積土が認められず、底面のレベルも一定しないことから、空堀であったと考えられる。SD-103は、SD-101の1層と同じ土層が堆積しており、連続して埋没したものと考えられる。SD-361・362の覆土は、ローム粒、砂粒をやや多く含む明黒褐色土で、しまりは強い。遺物 出土遺物はいずれも覆土一括として取り上げたもので、須恵器破片が多い。おそらく、SD-101と重複する竅穴住居跡から流れ込んだものと考えられる。竅穴住居跡群とは時期が異なるものとしては、古墳時代前期の壺（第310図9）、近世の陶器杯（第310図10）がある。覆土上層からは、この他にも内耳土器や染付碗の破片が出土しているが、図化はできなかった。また、覆土上層からウマの歯がまとまって出土している。顎骨は失われており、歯列の一部（上顎骨P2・P3～M2のうち2本、下顎骨P2・P4・M2・M3）が残っていた。



第3章 発見された遺構と遺物



第310図 SD-101・103・361出土遺物

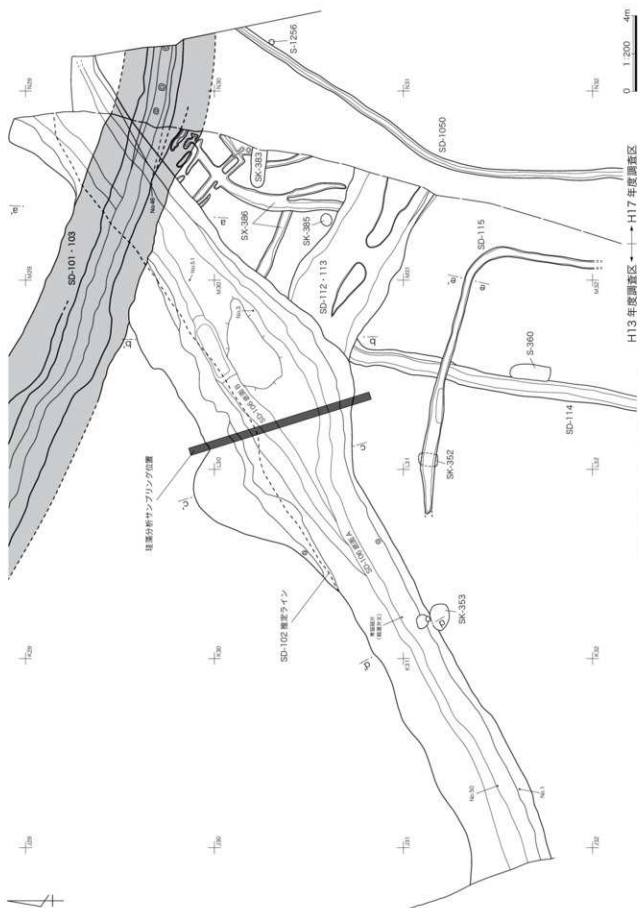
第114表 SD-101・103・361 遺物観察表

NO. 種類 器種	出土 遺構	法量 (cm・g)	成形・調整方法 特徴/残存状態	胎土/焼成/色調	出土位置 /注記
310-1 須恵器 蓋	SD-101	端 (10.8) 高 4.0	(内) ロクロナデ→天井部ナデ (外) ロクロナデ →天井部手持へラケズリ・口ヨコナデ (残) 天井部へ体部上半 8/8 端部 1/8 益子産?	白色粒子多・砂礫・黒色 融解粒少 良 5Y6/1 灰	覆土
310-2 須恵器 杯	SD-101	口 (17.2) 高 (2.9)	内外面ともロクロナデ (残) 1/8 益子産?	白色粒子多・黒色融解粒少 良 5Y5/1 灰	覆土
310-3 須恵器 杯	SD-101	台 (8.0) 高 (2.5)	内外面ロクロナデ、高台貼り付け 高台付 (残) 1/8 産地不明	白色粒子多 良 5Y5/1 灰	覆土
310-4 須恵器 杯	SD-101	台 (8.0) 高 (2.3)	内外面ロクロナデ→底部回転ヘラ切り離し →高台貼り付け 高台付 (残) 1/8 産地不明	白色粒子多 良 5Y6/1 灰	覆土
310-5 土師器 杯	SD-101	口 (12.0) 高 (3.2)	(内) ヨコナデ (外) ロコナデ・体ヘラケズリ 体部器壁薄い 内面へ口縁部外漆仕上げ (残) 1/8	砂粒少 良 10YR8/2 灰白	覆土
310-6 土師器 甕	SD-101	口 (20.0) 高 (5.2)	(内) ロコナデ胴ヘラナデつけ (外) ロコナ デ胴ヘラケズリ 頸部に明瞭な段を有する 口 縁部外面にタール状の付着物 (残) 1/8	砂粒多・雲母微 良 7.5YR6/4 に近い橙	覆土
310-7 須恵器 甕	SD-101	破片	(内) 同心円状当て具痕 (外) 格子目状タタキ 同一個体が癒着 外面に塊状の軸が付着 土器焼き台か? 産地不明	白色粒子多 良 5Y4/1 灰	M29
310-8 須恵器 甕	SD-101	破片	(内) 同心円状当て具痕 (外) 網目状タタキ 産地不明	白色粒子多 良 5Y6/1 灰	覆土
310-9 土師器 壺	SD-101	口 (14.1) 高 (4.3)	(内) ロコナデ→一部横方向ハケメ (外) 頸部縦方向ハケメ→複合口縁貼り付け (指押圧) →ヨコナデ (残) 1/8	砂粒多 良 10YR7/3 に近い黄橙	覆土

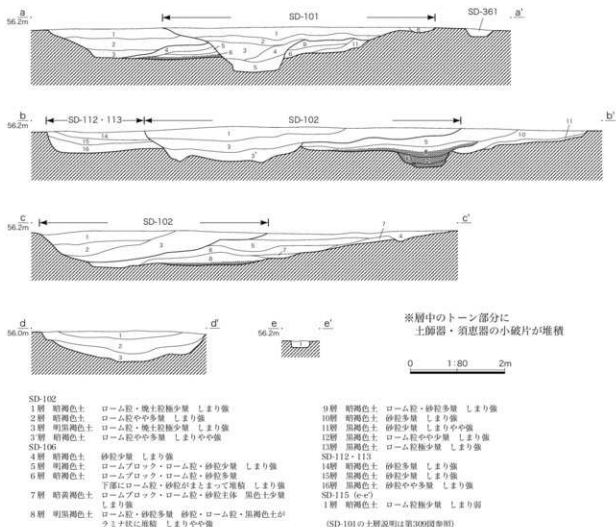
NO. 種類 器種	出土 遺構	法量 (cm・g)	成形・調整方法 特徴・残存状態	胎土・焼成/色調	出土位置 /注記
310-10 陶器 杯	SD-101	台 (5.4) 高 (1.7)	ロクロ成形 高台貼り付け 内面緑釉 高台内外無釉 (残) 2/8 近世 美濃?	微細白色粒子微 良 10YR8/2 灰白	覆土
310-11 須恵器 鉢?	SD-103 ・106	底 (9.6) 高 (5.8)	内外面ロクロナデ 底部ヘラケズリ? 筒状 底部近くに緩やかな稜 外面自然釉 (残) 4/8 益子産	白色粒子・黒色融解粒多 良 5Y6/1 灰 5Y8/1 灰白	SD-103 覆土 + SD-106 覆土
310-12 石製品 砥石	SD-101	長 (5.1) 幅 4.2 厚 1.0 重 33.67	弱い 上下端欠け 表面にタール状の付着物 第 310 図 13 と同一個体 折れた後再利用か	5Y8/1 灰白	覆土
310-13 石製品 砥石	SD-101	長 (5.9) 幅 3.5 厚 1.0 重 34.90	表・裏と左右側面、上端の 5 面使用 左右両側 面の擦痕は弱い 下端欠け 第 310 図 12 と同一個体 折れた後再利用か	5Y8/1 灰白	覆土
310-14 土師器 杯	SD-361	破片	内外面口ヨコナデ 外面体ヘラケズリ 内面へ口外漆仕上げ	白色粒子多・砂粒少 良 10YR4/3 にぶい黄褐	覆土
310-15 土師器 杯	SD-361 ・362	破片	内外面口ヨコナデ 外面体ヘラケズリ	白色粒子・砂粒多 良 10YR6/4 にぶい黄褐	覆土
図版 六一 鉄滓	SD-101	長 2.7 厚 1.7 幅 1.8 重 9.73	(写真図版のみ) 鉄滓。表面に土砂が厚く付着する。緻密で重量感有り。 地色は青灰色。		覆土

SD-102・106 (第 311～315 図・図版三九・六一)

位置・重複関係 SD-102・106 は調査区のほぼ中央に位置する溝状遺構で、幅は K31 グリッド付近で 3.5 m、深さは約 0.6 m である。東側が SD-101 溝状遺構と重複しており、SD-101 が新しい。また、L30 グリッドで SD-114・112・113 溝状遺構と重複しているが、いずれの溝よりも SD-102・106 が新しい。SD-102・106 は覆土断面の観察から 2 時期に分けることができる (第 313 図)。古い段階 (SD-106 段階) は L30 グリッド付近で底面が A・B の二股に大きく別れており、中央に低い島状の高まりが残っている。新しい段階 (SD-102 段階) では、SD-106 が埋没した後に再び溝を掘り返しているが、K30 グリッドから東側は底面 A のみを掘り返しているため、二股とはならない。覆土 SD-106 段階では、下層 (7～11 層) を中心として覆土に砂粒が大量に含まれており、底面には摩滅した土師器、須恵器の小破片が層状に堆積している。特に、底面が二股に分かれる L30 グリッド付近では、摩滅した土師器片が堆積した上に、黒褐色土と砂粒、ローム粒が薄くラミナ状に堆積している状況が確認できた (断面図 9 層)。中層 (5・6 層) はローム粒子や砂粒を多く含む暗褐色土が主体となっている。また、上層 (4 層) は砂粒がほとんど含まれない暗褐色土及び明褐色土が主体となっている。SD-102 は中層 (2 層) にローム粒子がやや多量に含まれているが、他の層には内容物はあまり含まれない。遺物 底面から大量に出土している土師器・須恵器の小破片は図化不能であったが、おそらくその多くが周辺の堅穴住居跡から流れ込んだものと考えられる。小破片の出土量は遺物収納箱 (34×54×20cm) 10 箱分で、総重量は 126kg である。SD-102・106 全体での出土量は 141kg である。中層から上層にかけては土師器・須恵器が多く出土しているが、これらも周辺の堅穴住居跡に由来するものと考えて差し支えないだろう。周辺の遺構と時期が異なるものは、中世の磁器碗 (第 314 図 1) があげられる。また、図化は出来なかったが、底面近くから鎗蓮弁文の施された青磁碗が出土している。その他に、紡錘車や土鈴、土玉などの土製品 (第 314 図 14・第 315 図 44～48) や、白玉 (第 315 図 49) などとも出土しており、堅穴住居跡の出土遺物とはやや異なっている。備考 大規模な区画溝の可能性が高い



第311図 SD-102・106 調査遺構 (1)

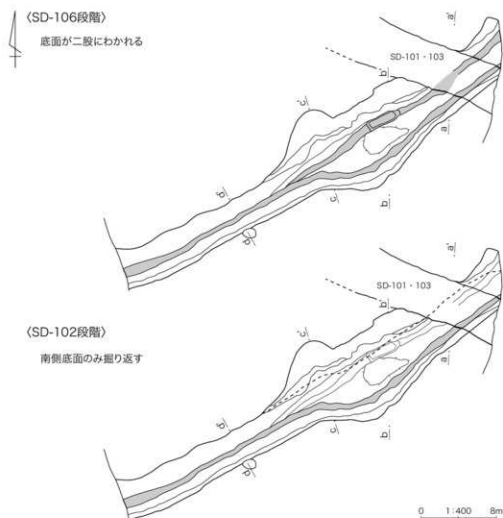


第312図 SD-102・106 溝状遺構 (2)

SD-103やSD-600とは角度がずれていることや、SD-102が完全に埋没した後にSD-101が掘り込まれていることから、これらの大規模な区画溝とは機能が異なると考えられる。また、古墳時代から平安時代の堅穴住居跡よりも新しいことから、それ以降に構築されたものと考えられる。なお、覆土の珪藻分析を実施したところ、河川の中～下流域にある沼沢地または湿地環境で埋没したとの結果を得た（付章参照）。

SD-112・113 (第311・312・316・317図)

位置・重複関係 K30 グリッドでSD-102・106 溝状遺構に接する溝で、SD-102・106の方が新しい。平成13年度の調査では、北端をSD-102・106に切られて失った溝状遺構と考えたが、平成15年度の調査では全く確認できなかったことから、大規模な土坑状の掘り込みあるいはSD-102・106と一体のものと考えられる。覆土 黒褐色土を主体とし、砂粒が多く含まれている。しまりは弱い。遺物 須恵器・土師器の破片が出土しているが、いずれも小片である（第316図1～6）。



第313図 SD-102・106 溝状遺構新旧関係

SD-115・154 (第311・312・316～318図)

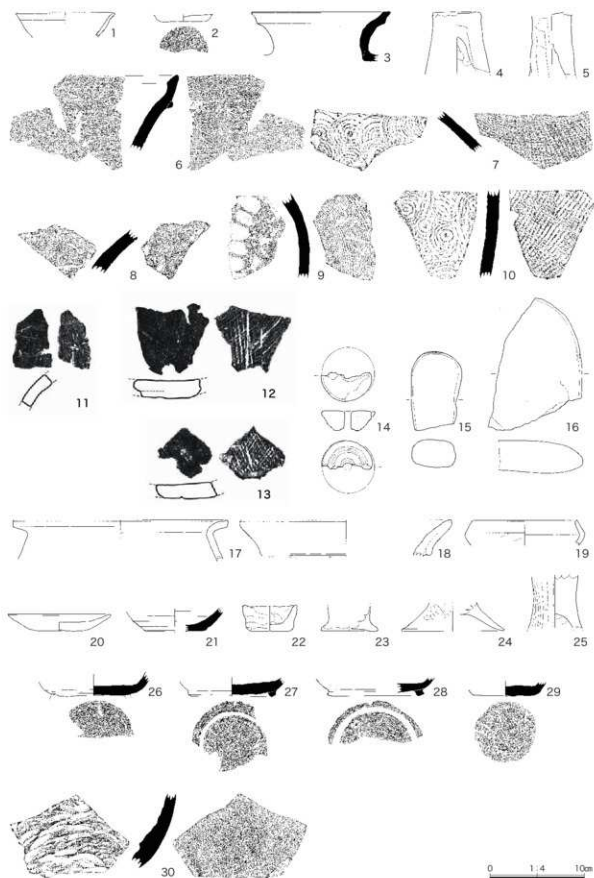
位置・重複関係 SD-115はK31からM31グリッドにかけて位置する。SD-152はL34から35グリッドにかけて位置する。どちらも浅い溝状遺構で、おそらく一連のものと考えられるが、L32から34グリッドにかけては削平により失われている。覆土 暗褐色土を主体とし、内容物をあまり含まない。しまりは弱い。
遺物 図化できたものは、SD-154から出土した須恵器甕の破片1点のみである(第316図7)。

SX-386 (第311・317図)

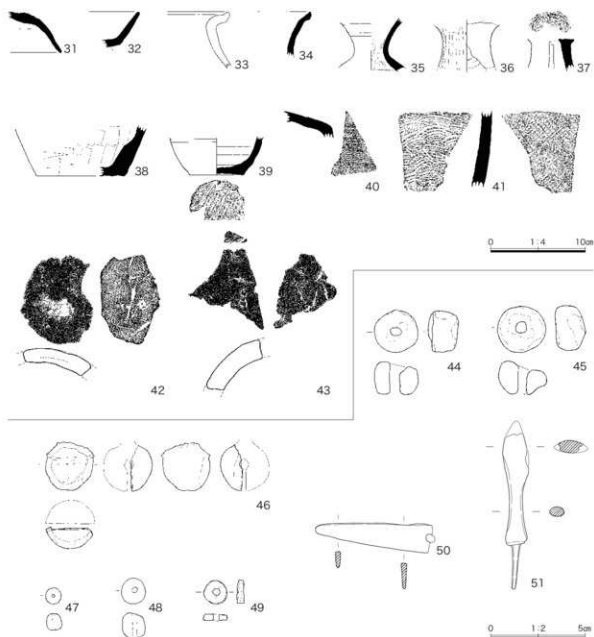
位置・重複関係 SD-102・106とSD-112・113が交わる東側にランダムに掘り込まれた溝状遺構である。SD-102・106よりも新しいと考えられるが、浅い掘り込みのためはっきりとしない。覆土 表土に似る灰褐色土が堆積しており、しまりは弱い。ローム粒が少量含まれる。**遺物** 周辺住居跡からの流れ込みと考えられる土師器・須恵器の小片が出土しているが、図化できるものはなかった。

SD-114 (第317・318図)

位置・重複関係 L30から36グリッドにかけて南北に長く延びる溝状遺構である。北端はSD-102、南端



第314図 SD-102・106出土遺物(1)



第315図 SD-102・106出土遺物(2)

第115表 SD-102・106 遺物観察表

NO. 種類 器種	法量 (cm・g)	成形・調整方法 特徴／残存状態	胎土／焼成／色調	出土位置／注記
314-1 磁器 碗	口 (10.6) 高 (2.6)	ロクロ成形 表面にロクロナデ痕が残る(内面 にはなし) 口ハゲ、他は透明釉 中国産か? (残) 1/8	微細黒色粒子少 良 7.5GY8/1 暗緑灰	覆土 SD-102・106 No.13
314-2 土師質 土器 皿	底 (5.1) 高 (0.6)	ロクロ成形 底部回転糸切り 内外面とも摩滅 (残) 4/8	砂粒少 良 7.5YR7/6 橙	SD-102・106 覆土
314-3 須恵器 壺?	口 (14.2) 高 (4.8)	(内) ロクロナデ・胴部タタキ? (種類不明) (外) ロクロナデ 頸部内面に絞り目・接合痕 あり 外面に灰付着 (残) 3/8 益子産?	砂礫やや多・白色粒子多 良 5Y5/1 灰	底面+5cm SD-102・106No.39

NO. 種類 器種	法量 (cm・g)	成形・調整方法 特徴/残存状態	胎土/焼成/色調	出土位置/注記
314-4 土師器 支脚	上端部径 (5.0) 高 (6.5)	輪積み成形 内面に粘土を詰め器壁を厚くする 棒状 下端部側が広がる 外面摩耗 (残) 4/8	砂粒・白色粒子少 良 5YR5/6 明赤褐	SD-102・106 覆土
314-5 土師器 高坏	脚部径 (4.6) 高 (6.8)	外面ナデ+粗いケズリ (残) 3/8	砂粒少 良 10YR6/3 にぶい黄橙	SD-102・106 覆土
314-6 須恵器 甕	破片	(内) 横方向のナデ (外) 横方向のナデ→間隙のある縦方向の櫛描 文→横方向の平行沈線 口縁部に突帯貼付 産地不明	微細白色粒子少 良 5Y7/1 灰白	底面+10cm SD-102・106-29 SD-101・K22・L30 に同一個体あり
314-7 須恵器 甕	破片	(内) 同心円状当て具痕 (外) 平行タタキ→カキメ 産地不明	微細白色粒子・黒色融解 粒多 良 N6/ 暗灰	底面+10cm SD-102・106-32
314-8 須恵器 甕	破片	(内) 横方向のナデ→櫛描の波線 (外) 平行タタキ→ナデ消す→櫛描の波線 胎土は緻密 三差産?	雲母やや多・小砂礫微 やや不良 7.5Y7/1 灰白	覆土一括 SD-101・ 102・106・112 に 同一個体の破片有り
314-9 須恵器 提瓶	破片	(内) 輪積み後ナデ (外) カキメ 内面に指頭圧痕残る 三差産?	微細白色粒多・砂粒少 良 5Y6/1 灰	SD-106 覆土一括+ SD-102,L30-3 層
314-10 須恵器 甕	破片	(内) 同心円状当て具痕 (外) 平行タタキ 産地不明	白色粒子多 良 N3/ 暗灰	SD-102・106 覆土
314-11 丸瓦	破片	凸面ヘラケズリ、凹面布目痕、布の合わせ目痕 が残る。 一枚作り。	砂粒・白色粒子多 やや硬質 7Y6/1 灰	覆土一括
314-12 平瓦	破片	凸面縄目痕とヘラ状工具による細い平行線。 凹面布目痕をナデ消す。 一枚作り。13 と同一個体。	白色粒子やや多 やや軟質 5Y5/1 灰	SD-102 K30 上層
314-13 平瓦	破片	凸面縄目痕とヘラ状工具による細い平行線。 凹面布目痕をナデ消す。 一枚作り。12 と同一個体。	白色粒子やや多 やや軟質 5Y5/1 灰	SD-102 K30 上層
314-14 土製品 紡錘車	上径 (5.5) 下径 (2.8) 厚 2.1 孔径 (0.9)	上面丁寒なナデ 側面上半ヨコナデ下半ミガキ 底面は摩滅 全体にタール状の付着物	白色粒子・砂粒多・雲母微 良 7.5YR3/4 暗褐	SD-102 覆土
314-15 甕	長 8.3 幅 5.3 厚 2.9 重 208.5	全体に弱い擦痕及び被熱 上面に敲打痕	7.5YR4/1 褐灰	SD-102-L30-3 層
314-16 石製品 不明	長 13.0 幅 9.1 厚 3.4 重 689.1	上下両面に弱い擦痕 楕円の盤状を呈するか?	10YR6/2 灰黄褐	底面+20cm SD-102・103 No.40
314-17 土師器 甕	口 (22.6) 高 (4.4)	(内) 口ヨコナデ胴ヘラナデ (外) ヨコナデ (残) 1/8	砂粒・雲母多 良 7.5YR6/4 にぶい橙	SD-102-L30-3 層
314-18 土師器 甕	口 (22.0) 高 (4.2)	(内) 摩滅 (外) 口ヨコナデ頭わずかに縦ハケ メ残る 口に幅広の粘土帯を貼付後、隙間に粘 土をつめて複合口縁とする (残) 1/8	砂粒多 良 7.5YR6/6 橙	SD-102 一括 + L30-3 層
314-19 土師器 坏	口 (11.0) 大 (12.6) 高 (2.6)	(内) ヨコナデ (外) 口ヨコナデ胴弱いナデ? 口縁部内傾 (残) 2/8	砂粒微 良 10YR6/3 にぶい黄橙	SD-102-K30 上層
314-20 土師質 土器皿	口 (10.8) 底 (6.4) 高 (1.8)	(内) ヨコナデ (外) ヨコナデ 底部糸切り? (残) 1/8	砂粒・微細な雲母やや多 良 7.5YR6/3 にぶい褐	SD-102 覆土

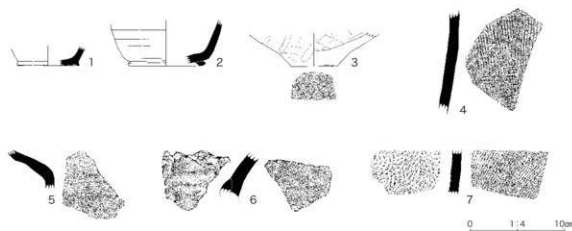
第3章 発見された遺構と遺物

NO. 種類 器種	法量 (cm・g)	成形・調整方法 特徴・残存状態	胎土／焼成／色調	出土位置／注記
314-21 須恵器 坏	底 (6.6) 高 (2.4)	内外面ロクロナデ (残) 1/8 益子産	白色粒子・砂礫多 良 5Y6/1 灰	SD-102 覆土
314-22 土師器 手捏ね 土器	口 (5.6) 底 (4.2) 高 2.6	内外面手捏ねによる成形 内面ユビナデ 底部ナデ (残) 2/8	白色粒子少 良 10YR5/2 灰黄褐	SD-102 覆土
314-23 土師器 高坏?	底 (6.0) 高 (2.6)	外面ナデ (残) 脚部 1/8	砂粒少 良 5YR5/4 にぶい赤褐	SD-102 覆土
314-24 土師器 高坏	底 (10.8) 高 3 (3.0)	(内) ナデ裾部ヨコナデ (外) 斜め方向ヘラケ ズリ裾部ヨコナデ 短脚 ハの字状に開く (残) 2/8	砂粒・白色粒子多 良 7.5YR6/4 にぶい橙	SD-102 覆土
314-25 土師器 高坏	脚部径 (4.4) 高 (5.4)	(内) ユビナデ (外) 縦方向ヘラケズリ 長脚	砂粒少 良 7.5YR5/6 明褐	SD-102 覆土
314-26 須恵器 坏	底 (7.7) 高 (2.3)	(内) ロクロナデ (外) ロクロナデ 底部回転 ヘラケズリ→高台貼付 高台付 (台は欠損) (残) 2/8 益子産?	白色粒子多 良 5Y6/1 灰	SD-102 覆土
314-27 須恵器 坏	底 (8.4) 高 (2.1)	(内) ロクロナデ (外) 回転ヘラケズリ→高台貼付 高台付 (残) 5/8 三義産?	砂粒少 二次被熱 7.5YR6/4 にぶい橙	SD-102 覆土
314-28 須恵器 坏	底 (9.2) 高 (2.0)	摩擦強により成形不明 高台付 (残) 底部 3/8 三義産?	砂粒少 不良 10YR7/3 にぶい黄橙	SD-102M29-3 層
314-29 須恵器 坏	底 (6.5) 高 (0.9)	(内) ロクロナデ (外) ロクロナデ 底回転ヘラ切り離し (残) 底 8/8 益子産?	砂粒やや多 良 5Y6/1 灰	SD-102 覆土
314-30 須恵器 甕	破片	(内) 同心円状当て具痕 (外) 平行タタキ 外面自然釉 産地不明	白色粒子・黒色融解粒多・ 砂礫少 良 5Y5/1 灰	SD-106 覆土
315-31 須恵器 蓋?	破片	ロクロナデ 天井部回転ヘラ切り離し後調整なし 益子産	白色粒子多 良 7.5Y5/1 灰	SD-106 覆土
315-32 須恵器 坏	破片	ロクロナデ 高台付き (台は欠損) 外面自然釉 益子産?	白色粒子多 良 5Y5/1 灰	SD-106 覆土
315-33 土師器 甕	破片	内外面ともヨコナデ 口縁部大きく外反	白色粒子多・雲母やや多 良 10YR4/3 にぶい黄褐	SD-106 覆土
315-34 須恵器 甕	破片	内外面ともロクロナデ 内外面に細かい気泡状の穴あり 外面自然釉 産地不明	白色粒子・黒色融解粒多 良 7.5Y6/1 灰	SD-106 覆土
315-35 須恵器 甕	頸 (3.6) 高 (5.4)	(内) 上部ロクロナデ 下部しぼり目 (外) ロクロナデ 外面上部に平行沈線 (残) 頸 3/8 産地不明	白色粒子やや多 良 N5/ 灰	SD-106 覆土
315-36 土師器 高坏	脚部径 (5.0) 高 (5.0)	(内) 脚部ユビナデ、坏部ナデ? (外) 縦方向のヘラケズリ (残) 脚部 3/8	砂粒少 良 7.5YR7/3 にぶい橙	SD-108K30 底
315-37 須恵器 高坏	脚部上径 (4.8) 高 (3.2)	(内) ナデ (外) ロクロナデ? 坏部との接合面に同心円状の凹凸 (当て具痕に 似る) 長方形の透かし二方向 (幅・長さ不明) (残) 脚部 4/8 産地不明	砂粒少 不良 5Y6/1 灰	SD-106-K30 最下層

NO. 種類 器種	法量 (cm・g)	成形・調整方法 特徴／残存状態	胎土／焼成／色調	出土位置／注記
315-38 須恵器 甕	底 (9.2) 高 (4.9)	(内) ヘラナデつけ (外) 胴下半から底部手持ちヘラケズリ 内面に自然軸 (残) 2/8 産地不明	白色粒子・黒色融解粒多 良 5Y5/1 灰	SD-106 覆土 + SD-109-L30-4 層
315-39 須恵器 甕	底 (5.8) 高 (3.9)	(内) ロクロナデ (外) ロクロナデ 底ヘラ切 り離し後一方向にヘラナデ 内面底部に灰?付着 (残) 4/8 益子産	白色粒子多・砂礫少 やや良 N4/ 灰	SD-106 覆土
315-40 須恵器 甕?	破片	(内) ロクロナデ (外) 波状の跡目文 (5 箇 2 列) 産地不明	白色粒子多・砂礫少 良 N4/ 灰	SD-106 覆土 SD-112・113 に 同一個体あり
315-41 須恵器 甕	破片	(内) 同心円状当て具痕 (外) 格子目状タタキ 産地不明	白色粒子多 良 N6/ 灰	SD-106 覆土
315-42 丸瓦	扶端面側破片	凸面ヘラケズリ、凹面布目痕をナデ消すが、布 の合わせ目痕残る。表面に粘土付着。一枚作り。	砂礫多 やや硬質 5Y6/1 灰	SD-106 覆土
315-43 丸瓦	破片	凸面ヘラケズリ、凹面布目痕、布の合わせ目痕 残る。 一枚作り。	砂礫・白色粒子多 やや硬質 5Y5/1 灰	SD-106 覆土
315-44 土製品 土玉	径 2.2 厚 1.5 孔径 0.5 重 7.53	粗いナデ成形 棒に粘土を巻き付け孔を作る 表面凹凸あり	砂礫少 良 7.5YR8/3 浅黄橙	SD-109-L30 最下層
315-45 土製品 土玉	径 2.5 厚 1.7 孔径 0.5 重 9.62	粗いナデ成形 穿孔方法は不明 厚みが左右で異なる 完存	砂礫少 良 10YR7/2 に近い黄橙	SD-102 覆土
315-46 土製品 土鈴	高 (2.6) 幅 (2.6) 重 0.4	エビによるナデ 球形 下部に長方形の孔 上部にツマミの痕跡あり	砂礫少 良 5YR5/4 に近い赤褐	SD-102・106 No.41
315-47 土製品 土玉	径 2.2 厚 1.5 孔径 0.5 重 7.53	棒に粘土を巻き付け表面を粗くナデ整形、表面 凹凸有り。完存。	砂礫少 良 7.5YR8/3 浅黄橙	SD-109-L30 最下層
315-48 土製品 土玉	径 2.5 厚 1.7 孔径 0.5 重 9.62	表面粗いナデ整形。孔は棒に粘土を巻いたのか、 棒を突き刺したか不明。完存。	砂礫少 良 10YR7/2 に近い黄橙	SD-106 覆土
315-49 石製品 白玉	径 1.2 厚 0.3 孔径 0.3 重 0.79	側面研磨後切断	粘板岩 7.5YR3/1 オリーブ黒	SD-102-L30 最下層
315-50 鉄製品 刀子	長 6.2 幅 1.4 厚 2.5 重 5.46	刀子刃部の破片。基部側の孔部分から先が欠損している。断面横側は平坦。		底面 No.24
315-51 鉄製品 鏃	長 8.1 幅 1.4 最大厚 1.1 重 10.92	柳葉式の鏃。切先が欠損している。		覆土 +20cm No.40
図版 六一 鉄斧	長 4.4 幅 3.5 厚 1.4 重 31.42	鍛冶斧。底面は木炭痕により凹凸がある。木炭は 6×13mm 以上のもの が確認できる。上面は平坦で赤錆が付着しており、木炭痕が顕著。斧は緻 密で重量感有り。地色は黒褐色。(写真図版のみ・写真は裏面を撮影。)		SD-108-K30 上層

は SD-1050 と合流しており、どちらの溝よりも古い。SD-115・154 と重複しているが、SD-114 が新しい。
また、SI-34・38・39 と重複しており、SD-114 が新しい。L33 グリッド付近で緩く S 字状にカーブしている。
断面は台形を呈するものと考えられるが、壁は崩れてなだらかになっている。覆土 部分によって大きく異
なる土層が堆積している。北側ではローム粒や砂粒を多く含む暗褐色土、南側はロームブロックを多く含む褐
色土を主体としている。遺物 周辺住居跡からの流れ込みと考えられる土師器・須恵器の破片が出土してい
るが、図化できるものはなかった。

第3章 発見された遺構と遺物



第316図 SD-112・113・154出土遺物

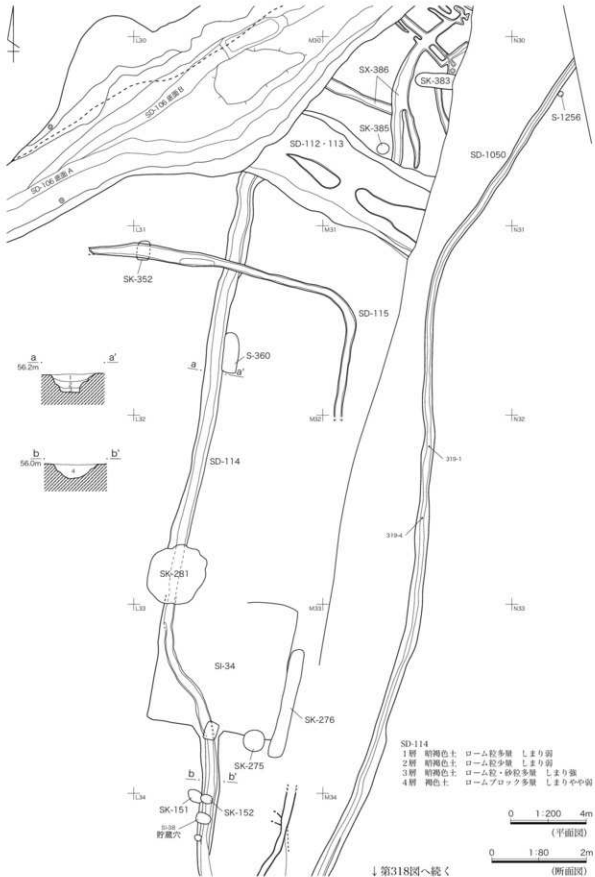
第116表 SD-112・113・154遺物観察表

NO. 種類 器種	出土遺構	法量 (cm・g)	成形・調整方法 特徴/残存状態	胎土/焼成/色調	出土位置/注記
316-1 須恵器 坏?	SD-112・ 113	底 (6.5) 高 (2.0)	内外面クロナデ 底部クロナデ? ケズリ出し高台 (残) 1/8 産地不明	微細白色粒少 良 5Y6/1 灰	SD-112・113 覆土一括
316-2 須恵器 瓶?	SD-112・ 113	底 (7.0) 高 (4.8)	内外面クロナデ 底部回転ヘラケズリ後高台貼付 高台付 (残) 1/8 益子産	砂礫少・白色粒子多 良 7.5YR7/1 灰白	SD-112・113 覆土一括
316-3 土師器 甕	SD-112	底 (5.0) 高 (3.5)	(内) 弱いヘラナデ (外) 弱いナデ 底部から大きく開く (残) 1/8	砂粒少 良 7.5YR8/3 浅黄橙	M30 一括
316-4 須恵器 壺	SD-112	破片	(内) ナデ (外) 平行タタキ 益子産?	砂礫・白色粒子少 良 10GY5/1 緑灰	M30 一括
316-5 須恵器 壺	SD-112・ 113	破片	(内) ナデ (外) ナデ+波状飾描文 三益産?	白色粒子多 良 5Y5/1 灰	SD-112・113 覆土一括
316-6 須恵器 甕	SD-112	破片	(内) 横方向のナデ (外) 横方向のナデ→間隙 のある縦方向の髹描文→横方向の平行沈線 頸部接合部分で欠損 産地不明	雲母やや多・小砂礫 微 緻密 やや不良 7.5Y7/1 灰白	M30 一括 SD-101・102・106 に同一個体片有り
316-7 須恵器 甕	SD-154	破片	(内) 同心円状当て具痕 (外) 平行タタキ 産地不明	白色粒子・黒色融解 粒多・砂礫少 良 7.5Y5/1 灰	覆土一括

SD-1050・1187 (第317～319図・図版三九・六一)

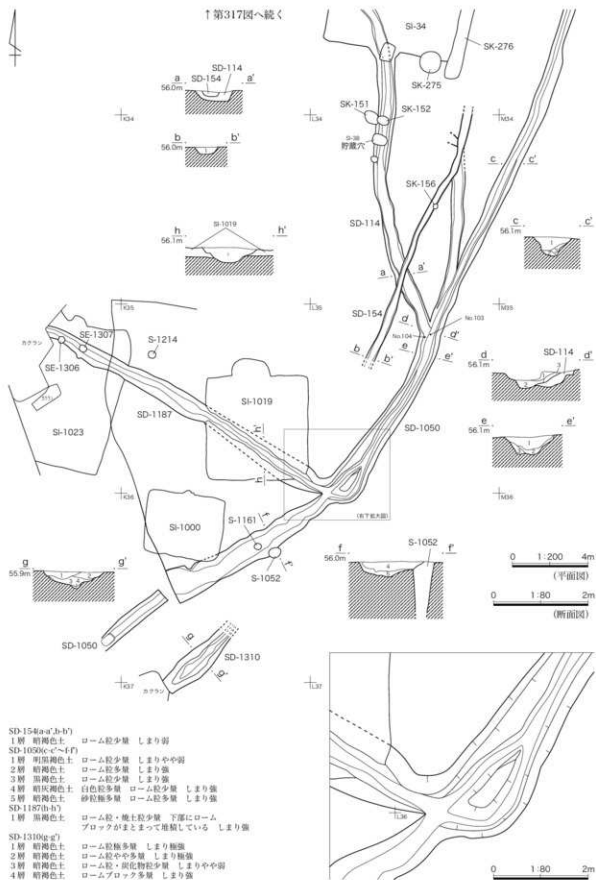
位置・重複関係 SD-1050は、調査区中央の低地Aの北側に沿って南北に走る溝状遺構である。L36グリッド付近で東西に延びるSD-1187、L35グリッドでSD-114が合流する。SD-114はSD-1050よりも古いが、SD-1050と1187の新旧関係ははっきりしない。SD-1050・1187ともに幅が0.8～1mで断面形状を呈するが、SD-1050は低地の黒色土を地山としているため、壁の崩れが著しい。SD-1187との合流点より南側は、幅が約1.4mまで広がり、断面も皿状になっているが、H17年度調査区では再び断面形状になっている。

覆土 SD-1187の合流点を境として大きく異なっている。合流点よりも北側では黒褐色土を主体とし、覆土中にローム粒が多く含まれている。南側では、表土に似る暗灰褐色土が厚く堆積していることから、埋没が北側に比べ遅かったものと考えられる。SD-1187は黒褐色土を主体としており、下部にロームブロックがまとまって堆積している。遺物 SD-1050からは、中世の中国産磁器や捏鉢の破片、近世以降のものと考えられる土鍋が出土している(第319図2～4)。他には、流れ込みと考えられる須恵器・土師器



第317図 SD-1050・114・1187・1310溝状遺構(1)

第3章 発見された遺構と遺物

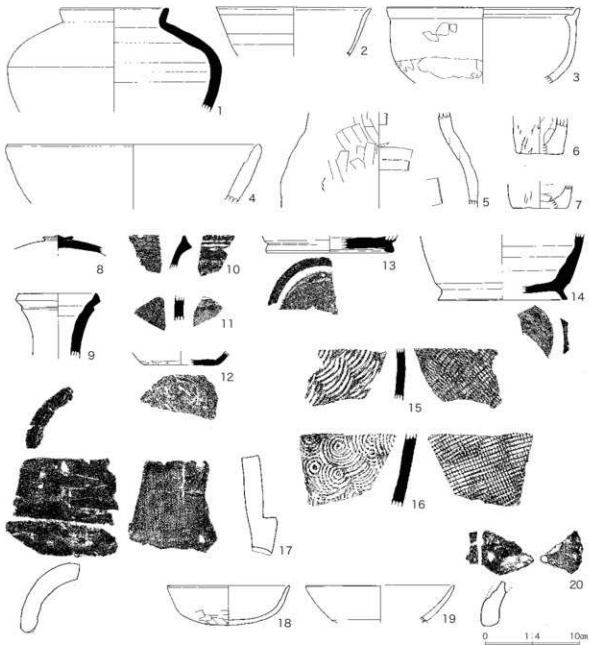


第318図 SD-1050・114・1187・1310 溝状遺構 (2)

の破片が多く出土している（第319図5～17）。SD-1187は出土量が少なく、図化できたものは第319図18～20の3点のみである。

SD-1310（第318・319図）

位置・重複関係 K36 グリッドに位置する溝状遺構である。平成17年度の調査で確認されているが、隣接する平成15年度調査区では確認できていないことから、土坑状の掘り込みである可能性も高い。西端は攪乱により失われている。断面皿状を呈し、壁はなだらかに立ち上がる。覆土 暗褐色土を主体とし、ローム粒やロームブロックが多く含まれている。しまりは全体的に強い。遺物 須恵器甕の破片が1点出土しているのみで、図化はできなかった。



第319図 SD-1050・1187出土遺物

第3章 発見された遺構と遺物

第117表 SD-1050・1187・1310 遺物観察表

NO. 種類 器種	出土遺構	法量 (cm・g)	成形・調整方法 特徴・残存状態	胎土/焼成/色調	出土位置 /注記
319-1 須恵器 甕	SD-1050	口 (11.6) 大 (22.6) 高 (11.0)	内外面ともロクロナデ 胴部上半内外面に自然軸 外面に灰付着 (残) 1/8 益子産	白色粒子・砂粒極多・黒 色粒子多 良 N4/1 灰	覆土 No.101
319-2 磁器 碗	SD-1050	口 (16.4) 高 (5.2)	ロクロ成形 口端部のみ無軸 (口ハゲ) 体部施軸 (緑軸) (残) 1/8 中国産か?	微細な白色粒子多 良 7.5GY8/1 明緑灰	覆土
319-3 陶器 土鍋	SD-1050	口 (20.4) 高 (8.0)	ロクロ成形 内外面に施軸 (鉄軸) 底部外面受け部無軸 外面に多量の焦げ付着 (残) 2/8	微細な白色粒子多	M33 確認面
319-4 瓦質土器 捏鉢?	SD-1050	口 (27.2) 高 (6.1)	輪積み後ロクロ成形? 口縁部内面に幅広の接合痕あり (かえりがとれたものか?) 表面あばた状の剝離 (残) 1/8	微細な白色粒子多 やや不良 10YR6/3 に近い黄橙	覆土 No.102
319-5 土師器 甕	SD-1050	高 (6.1)	(内) 弱いヘラナデ (外) ヘラケズリ 内面に輪積み痕 (残) 2/8	砂粒多・雲母やや多・砂 礫少 良 5YR5/8 明赤褐	ベルト
319-6 土師器 ミナツ土器	SD-1050	底 (5.0) 高 (3.9)	(内) 指ナデ (外) 弱いナデ 表面にひび割れ多 (残) 1/8	赤色融解粒極多・雲母微 良 10YR5/4 に近い黄褐	底面
319-7 土師器 ミナツ土器	SD-1050	底 (5.8) 高 (2.5)	(内) ヘラナデつけ (外) 弱いナデ 内面にケール状の付着物 (残) 1/8	微細な白色粒子多・赤色 融解粒少 良 5YR4/8 赤褐	ベルト
319-8 須恵器 蓋	SD-1050	胴部径 (3.2) 高 (2.2)	(内) ロクロナデ (外) 天井部回転ヘラケズリ 胴部低い (残) 1/8 益子産?	白色粒子多 良 5Y5/1 灰	M34
319-9 須恵器 瓶	SD-1050	口 (8.3) 高 (6.4)	内外面ともロクロナデ 口縁部に突帯めぐる フラスコ形の瓶か? (残) 6/8 益子産	白色粒子極多 やや良 10Y4/1 灰	ベルト
319-10 須恵器 甕	SD-1050	破片	内外面ともロクロナデ 外面波状櫛描文 外面黒色化 産地不明	砂粒少 良 N3/ 灰	覆土
319-11 須恵器 甕	SD-1050	破片	内外面ともロクロナデ 外面緻密な波状櫛描文+カキメ 外面黒色化 産地不明	白色粒子多 良 N4/ 灰	覆土
319-12 須恵器 坏	SD-1050	底 (8.2) 高 (1.2)	(内) ロクロナデ (外) ロクロナデ 底部手持ちヘラケズリ (一方向) (残) 1/8 新治産	砂礫極多・白色粒子多 良 5Y6/1 灰	ベルト
319-13 須恵器 坏	SD-1050	底 (13.6) 高 (1.8)	(内) ロクロナデ (外) 底部回転ヘラケズリ→中心部ナデ 高台付 (残) 2/8 産地不明	白色粒子・砂礫多 やや良 N6/ 灰	覆土
319-14 須恵器 瓶?	SD-1050	底 (15.6) 高 (6.8)	(内) ロクロナデ (外) ロクロナデ→底部回転ヘラケズリ 高台付 底部ヘラ記号 内面底部自然軸 益子産?	白色粒子・砂礫極多 良 5Y4/1 灰	9
319-15 須恵器 甕	SD-1050	破片	(内) 同心円状当て具痕 (外) 平行タタキ 産地不明	白色粒子多・黒色融解粒 少 良 N6/ 灰	覆土
319-16 須恵器 甕	SD-1050	破片	(内) 同心円状当て具痕 (外) 平行タタキ 産地不明	白色粒子多・砂礫少 良 10Y4/1 灰	K36
319-17 瓦	SD-1050	玉縁破片	凸面ナデ、凹面布目痕、布の合わせ目痕残る。 上端と右側側面が一部残存。 一枚作り。	砂粒多・砂礫やや多 やや軟質 10YR6/4 に近い黄橙	覆土

NO. 種類 器種	出土遺構	法量 (cm・g)	成形・調整方法 特徴／残存状態	胎土／焼成／色調	出土位置 ／注記
319-18 須恵器 坏	SD-1187	口 (15.7) 高 (3.9)	内外面クロコナデ 底部外面に凹線 (高台貼付のためか) (残) 1/8 産地不明	白色粒子・砂粒少 良 5Y5/1 灰	覆土
319-19 土師器 坏	SD-1187	口 (12.9) 高 (4.1)	(内) ココナデ (外) 口ココナデ体ケズリ 口縁部内面に彫り込みあり (残) 1/8	白色粒子多・雲母微 良 2.5YR6/2 灰黄	覆土
319-20 瓦	SD-1187	破片	凸面ヘラケズリ、凹面布目痕。摩滅強。	白色粒子少 軟質 10YR6/4 に近い黄橙	覆土

SD-137・530 (第309・320・321図)

位置・重複関係 K・L25 グリッドから 28 グリッドまで南北に走る溝状遺構で、北端はSD-148、南端はSD-361と合流している。合流部分には時期不明の長方形土坑が多く掘り込まれているため、新旧関係は不明である。断面形はいずれも浅い皿状を呈する。覆土 上層は白色粒子を多量に含む暗褐色土、下層は褐色土を主体とする。覆土中には赤錆状の赤色粒子が多く含まれており、粘性が強い。遺物 土師器・須恵器の小片が出土している (第321図2～7)。

SD-148 (第320・321図)

位置・重複関係 K25 から L24 グリッドにかけて東西に走る溝状遺構で、西端は調査区西側の削平部分SD-140と重複し、その先はなくなっている。SD-140が新しい。断面は台形を呈する細く浅い溝状遺構の多くがSD-600及びSD-101と並行して作られているのに対し、SD-148のみがSD-102・106と並行して作られている。また、覆土下層から土器が多く出土している点も、SD-102・106と似ている。覆土 ローム粒を多く含む暗褐色土を主体とし、覆土上層には砂粒も多く含まれる。しまりは強い。遺物 須恵器・土師器の破片が出土しているが、小片が多い (第321図14～17)。

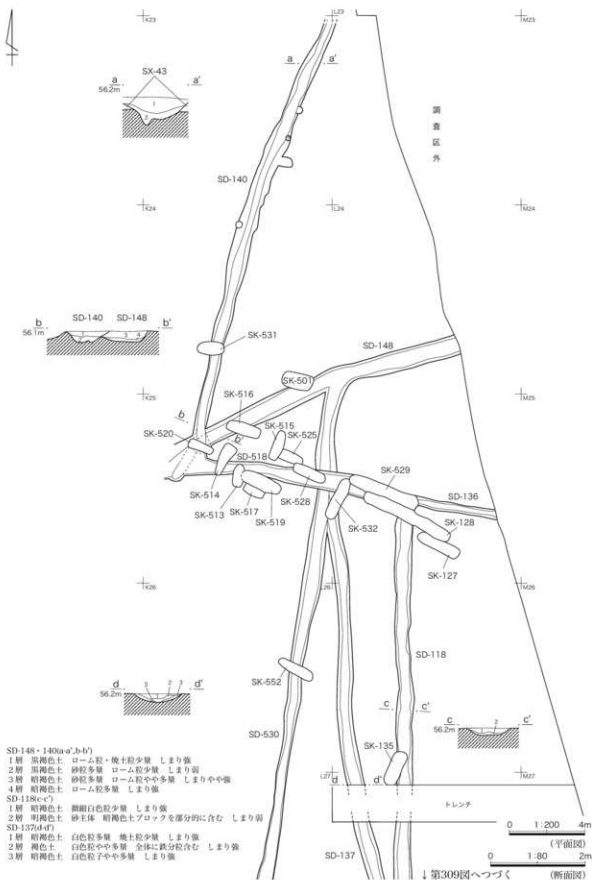
SD-118 (第309・320・321図)

位置・重複関係 L25 から 27 グリッドにかけて南北に走る溝状遺構で、北端はSD-136、南端はSD-362と合流している。また、L28 グリッド付近で東西に走る溝と合流するが、一体のものか否かは不明である。覆土 上層は暗褐色土、下層は砂粒を主体とする。下層はしまりが弱い。遺物 瓦が1点出土している (第321図18)。

SD-140 (第320・321図)

位置・重複関係 K23 から 25 グリッドにかけて南北に走る溝状遺構である。北端は調査区外、南端はSD-518にぶつかって止まっている。調査区西側の削平部分の東縁に沿って作られており、地境の溝にあたると思われる。断面は台形を呈し、底面は北から南にかけて緩やかに傾斜する。覆土 砂粒やローム粒を多く含む暗褐色土を主体とする。遺物 須恵器・土師器の小片が多く、周辺住居跡からの流れ込みと考えられる。それ以外では、常滑産の陶器甕破片が出土している (第321図8～13)。

第3章 発見された遺構と遺物



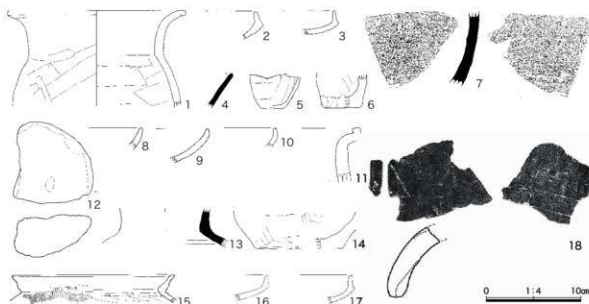
第320図 SD-140・148・518・136・137・530・118 溝状遺構

SD-518・136 (第320・321図)

位置・重複関係 K・L26 グリッドにかけて東西に走る溝状遺構である。東端は調査区外、西端は削平部分に入ってなくなっている。SD-140・148と重複しており、SD-518が新しい。SD-530・137・118とも重複するが、時期不明の長方形土坑がさらに重複しているため、新旧関係は判然とし難い。SD-518と136は連続する溝の可能性もあるが、直交するSD-118との合流部分で幅と深さが変わることから、別遺構とした。SD-518は断面が台形で深さが約20cm、SD-136は断面が浅い皿状で深さ約10cmである。覆土 SD-518は内容物をあまり含まない暗褐色土を主体とする。SD-136は黒色土をブロック状に含む暗褐色土を主体とする。遺物 SD-136から須恵器・土師器の小片がわずかに出土したのみである(第321図1)。

SD-1259・1260 (第320・321図)

位置 Q38・39 グリッドに位置する。並行する2条の溝状遺構だが、東側は2条の溝が互い違いに掘り込まれている。調査区の東端を南北に走っており、両端は調査区外へと抜けている。断面は極浅い皿状である。東西の溝の幅は1.8～2mで、南側がやや狭くなっている。溝の間には硬化面は確認できなかったが、上面が大きく削平されているため確定はできない。古い地割の方向に沿っていることから、道路状遺構である可能性がある(第4章調査の成果参照)。覆土 表土に似る暗灰褐色土が堆積していた。遺物 須恵器・土師器の破片が出土している(第322図1・2)。



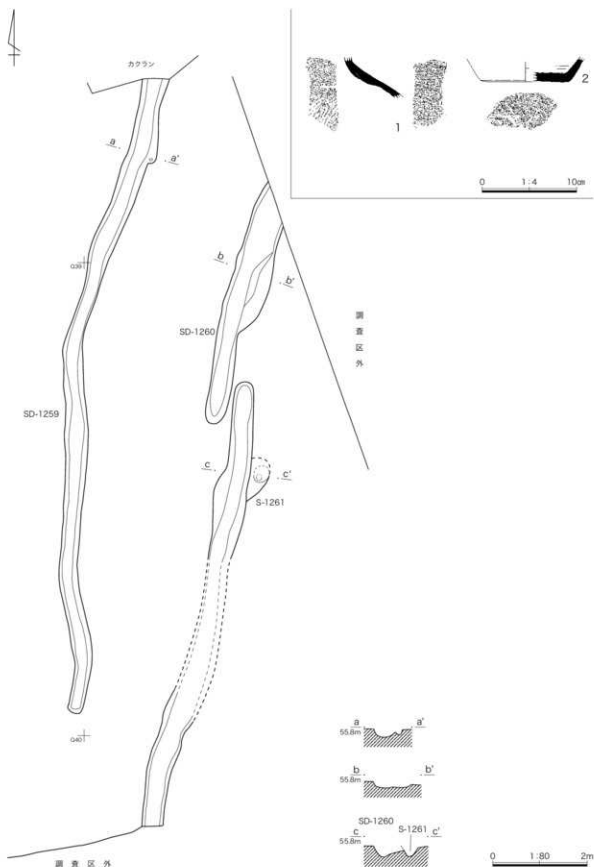
第321図 SD-140・148・518・136・137・530・118出土遺物

第118表 SD-140・148・518・136・137・530・118・1259・1260 遺物観察表

NO. 種類 器種	出土遺構	法量 (cm・g)	成形・調整方法 特徴/残存状態	胎土/焼成/色調	出土位置 /注記
321-1 土師器 甕	SD-136	口 (18.9) 高 (10.0)	内外面とも口ヨコナデ割ヘラナデ (残) 1/8	砂礫・白色粒子多 良 7.5YR5/4 褐	覆土
321-2 土師器 杯	SD-137	破片	内外面ヨコナデ 体摩滅により不明 体部摩滅により不明	白色粒子やや多 やや良 10YR3/2 黒褐	覆土

第3章 発見された遺構と遺物

NO. 種類 器種	出土遺構	法量 (cm・g)	成形・調整方法 特徴・残存状態	胎土／焼成／色調	出土位置 ／注記
321-3 土師器 杯	SD-530	破片	(内) 口ヨコナデ (外) 口ヨコナデ体ヘラケズリ	白色粒子多・砂礫少 良 10YR3/1 黒褐	覆土
321-4 須恵器 杯	SD-530	破片	内外面クロコナデ 益子産？	白色粒子極多量・砂礫少 良 7.5YR4/1 灰	覆土
321-5 土師器 ミナヅ土器	SD-137	口 (5.3) 底 (2.3) 高 (3.7)	(内) 弱いヘラナデ (外) 弱いナデ 外面に輪痕残る (残) 口6/8 胴4/8	砂礫多・白色粒子少 やや不良 2.5Y7/2 灰黄	覆土
321-6 土師器 ミナヅ土器	SD-530	底 (4.0) 高 (3.7)	(内) 強い指ナデ (外) 弱いナデ 外面調整弱い (残) 1/8	白色粒子多 良 10YR3/2 黒褐	覆土
321-7 須恵器 甕？	SD-530・ 137	破片	(内) ロクロナデ (外) ロクロナデ・下部回転ヘラケズリ 産地不明	黒色融解粒・白色粒子 多・砂礫やや多 良 N4/ 灰	覆土
321-8 土師器 杯	SD-140	破片	内外面口ヨコナデ 外面体ヘラケズリ 内外面漆仕上げ 口縁部内面に凹線	白色粒子やや多 やや良 7.5YR3/1 黒褐	覆土
321-9 土師器 杯	SD-140	破片	内外面口ヨコナデ 外面体ヘラケズリ 内面にミガキ状の光沢が見えるが、単位不明	砂礫少 二次焼熱 7.5YR5/6 明褐	覆土
321-10 土師器 杯	SD-140	破片	内外面口ヨコナデ 外面体ヘラケズリ 内外面漆仕上げ	砂礫少・雲母微 良 7.5YR5/4 にぶい褐	覆土
321-11 陶器 甕	SD-140	破片	内外面クロコナデ 鉄軸 常滑産	白色粒子極多・砂礫少 良 5YR3/3 暗赤褐	覆土
321-12 石製品 石皿？	SD-140	長 (8.7) 幅(8.1)厚4.5 重 237.41	多孔質 石皿状に加工したものと 考えられるが、用途不明	5YR3/1 黒褐	覆土
321-13 須恵器 甕	SD-140	頸 (9.8) 高 (4.2)	内外面クロコナデ (残) 1/8 産地不明	微細な白色粒子多 良 10YR5/1 灰	覆土
321-14 土師器 杯？	SD-148	底 (9.3) 高 (4.7)	(内) 弱いナデ (外) 口ヨコナデ体 弱いナデ 底部近くケズリ 内面欠け多い	白色粒子やや多・砂礫・ 雲母微 良 7.5YR6/6 橙	覆土
321-15 土師器 甕	SD-148	口 (17.2) 高 (2.7)	(内) 口ヨコナデ胴強いヘラケズリ (外) 口ヨコナデ胴ハケメ S字状口縁 口縁部外面にスス付着 (残) 1/8	砂礫・白色粒子多 良 10YR4/3 にぶい黄褐	覆土
321-16 土師器 杯	SD-148	破片	内外面口ヨコナデ 外面体ヘラケズリ 外面摩滅	白色粒子少・雲母微 良 10YR6/4 にぶい黄褐	覆土
321-17 土師器 杯	SD-148	破片	内外面口ヨコナデ 外面体ヘラケズリ 口縁部下に浅い凹線 内面へ口外漆仕上げ	白色粒子・砂礫やや多 良 5YR5/6 明赤褐	覆土
321-18 瓦	SD-118	左側縁破片	凸面ヘラケズリ、凹面布目痕をナデ消すが、布の 合わせ目痕残る。表面に粘土付着。一枚作り。 SD-106No.42 と同一個体か？	砂礫多 やや硬質 5Y6/1 灰	覆土
322-1 須恵器 甕	SD-1259	破片	(内) 頸ナデ 胴同心門状当て具痕 (外) カキメ 外面自然焼 産地不明	白色粒子・黒色融解粒 多・砂礫少 良 N6/ 灰	覆土
322-2 須恵器 杯？	SD-1260	底 (9.4) 高 (2.7)	内外面クロコナデ 底部手持ちヘラケズリ (残) 2/8 益子産	砂礫・白色粒子多 良 N4/1 灰	覆土



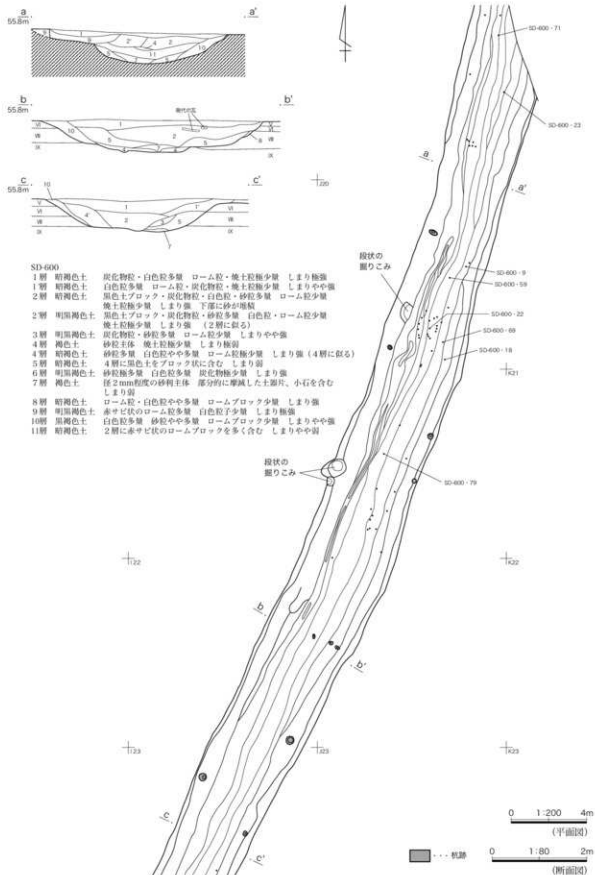
第322図 SD-1259・1260 および出土遺物

SD-600・973・SX-53 (第323～329図・図版三九・六一・六二)

位置・重複関係 H26グリッドからJ19グリッドまで約80mに渡って南北に走る大規模な溝状遺構で、南端はSD-101溝状遺構と重複している。重複部分は町調査区で確認されており、新旧関係はSD-600(旧)→SD-101(新)である。SD-101とは直交しているのか、それとも直角に曲がって合流するのかわからない。断面は緩やかな皿状を呈し、最も広いI25グリッド杭付近で上面の幅4.8m、下面の幅2.0m、最も深いH26グリッド杭付近で約0.7mである。底面は北から南へ向かって直線的に伸び、北端と南端の高低差は10cm程度ではほぼ水平である。壁面には部分的に細い杭列の跡(第323・324図網かけ部分)や段状の掘り込み(足かけ穴か)が確認された。

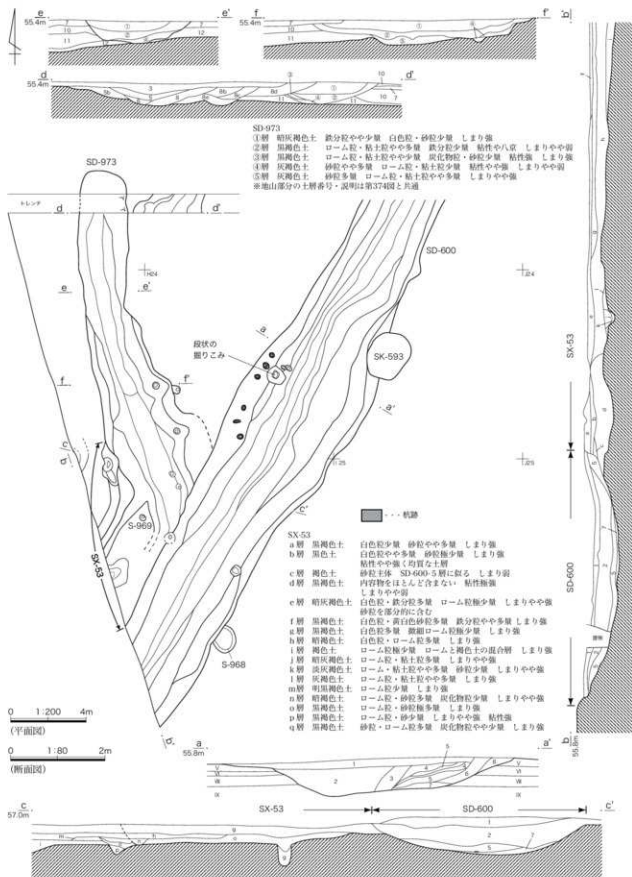
SD-973溝状遺構はH25グリッドからG23グリッドにかけて位置する。SD-973はⅢ層上面で平面的に確認することはできなかったが、トレンチ内で溝状の掘り込みが確認された。南端はSD-600と重複する部分で収束している。新旧関係は、SD-973(旧)→SD-600(新)である。SD-973の立ち上がりはH24グリッド付近までは確認できたが、H23グリッド付近のトレンチでは確認できなかった。西側には、SD-973を切る浅い窪地が広がっており、南端はこの窪地に入り込む形で収束すると考えられる。SX-53は、SD-973がSD-600に切られる地点の西側に広がる浅い窪地である。内部にはSD-973とよく似た覆土が堆積しており、両者の新旧関係は判断しがたい。SX-53の覆土には砂が多く含まれている。覆土及び出土状況 SD-600の覆土は、25グリッドラインよりも北側で掘り返しの跡が確認できる(2層)。掘り返しは23グリッドラインより南では西側、北では東側で掘り返しており、この掘り返しによって溝全体の幅は構築当初よりも広がったものと考えられる。また、25グリッドラインより南では全体的に掘り返されている。掘り返し以前の覆土(4～10層)は薄い層がレンズ状に堆積しており、砂粒が多量に含まれている。一方、掘り返し後の覆土(1・2・11層)は、特に2層が厚く堆積しており、一部溝の外まで広がっている(第323図c-e)。また古墳時代のものから現代に近いものまで幅広いことから、覆土が時間を追って堆積したものではない可能性が高い。おそらく掘り返し後の溝は、圃場整備に伴って一気に埋め戻されたものと考えられる。一方で、SD-600の底面には数カ所の遺物ブロックが確認された。遺物ブロック1～3(第325図網かけ部分)では、摩滅した土器片が多量に堆積していた。また、J20グリッド内のブロックでは、復元可能な個体が多く出土している(第326図9・22など)。これらの遺物ブロックは、SD-600の底面にできた窪みに、流れ込んだ遺物が滞留したものと考えられる。遺物ブロック中出土のものを含めて、溝底面から出土した遺物のうち、図化できたものは5点である(第326図22・第327図59・67・72・76)。これら底面出土の遺物はいずれも中世以前のもので、近世以降の陶磁器や銭などは含まれないことから、溝の掘り返しは近世より前の時期に行われた可能性が高い。

SD-973溝状遺構の覆土は灰褐色土と暗褐色土が交互に堆積しており、最下層の4層には砂が多量に含まれている。覆土はいずれも粘土化がかなり進んでおり、長期間に渡って水被していたと考えられる。SX-53の覆土も砂を多量に含んでいる。SX-53の遺物はH25グリッド付近を中心に集中し(第325図)、SD-973出土遺物と接合するものが多い。SD-973・SX-53は共に、覆土の粘土化が進んでいることや遺構の形が明確でない点から考えて、近接するSD-600とは異なり、自然にできた流路の中に遺物が流れ込んだ可能性が高い。また、両遺構間での遺物接合が多いことから、一連の遺構と考えてさしつかえないだろう。さらに、SD-600の遺物と接合関係が見られず、SD-600に見られる中世・近世の遺物がほとんど出土していないことから、SD-600溝状遺構の構築時には埋没が終了していたものと考えられる。

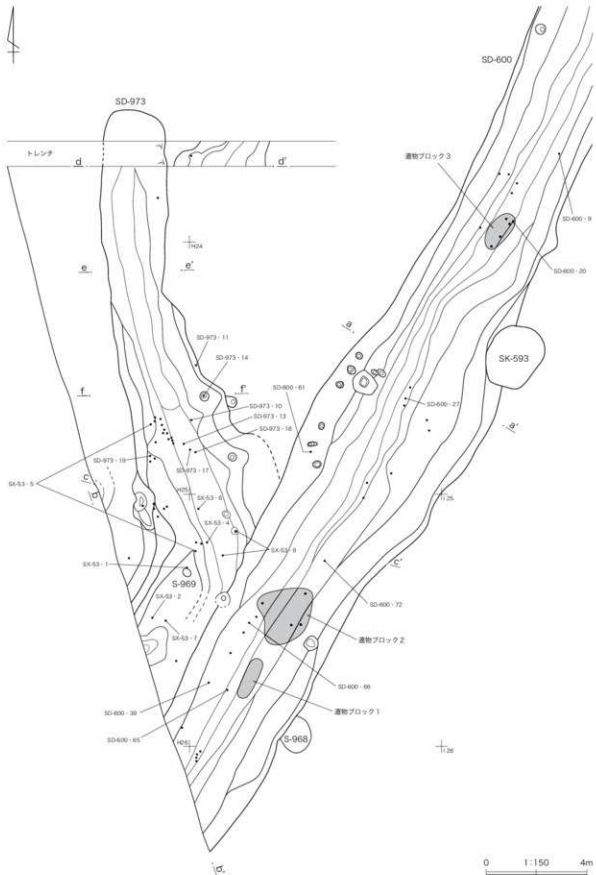


第323図 SD-600・973 溝状遺構(1)

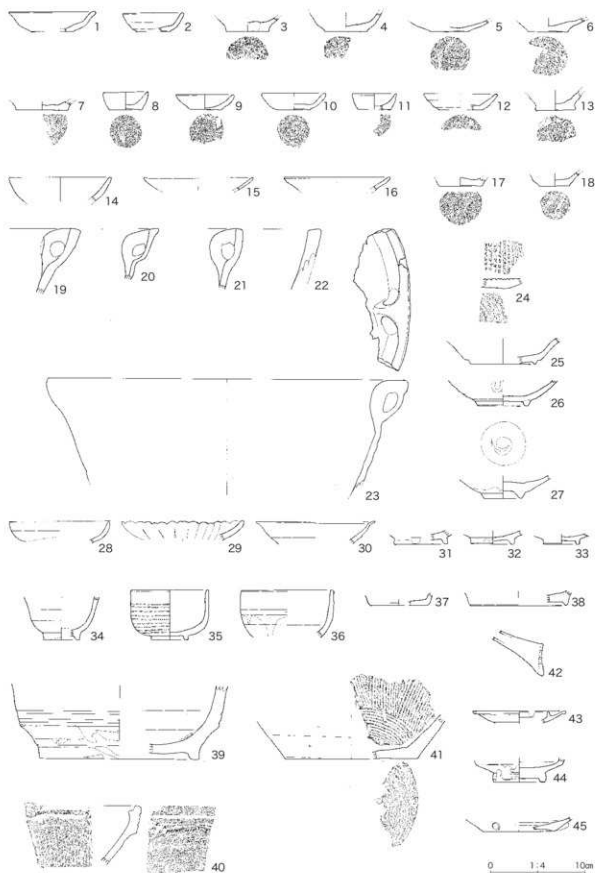
第3章 発見された遺構と遺物



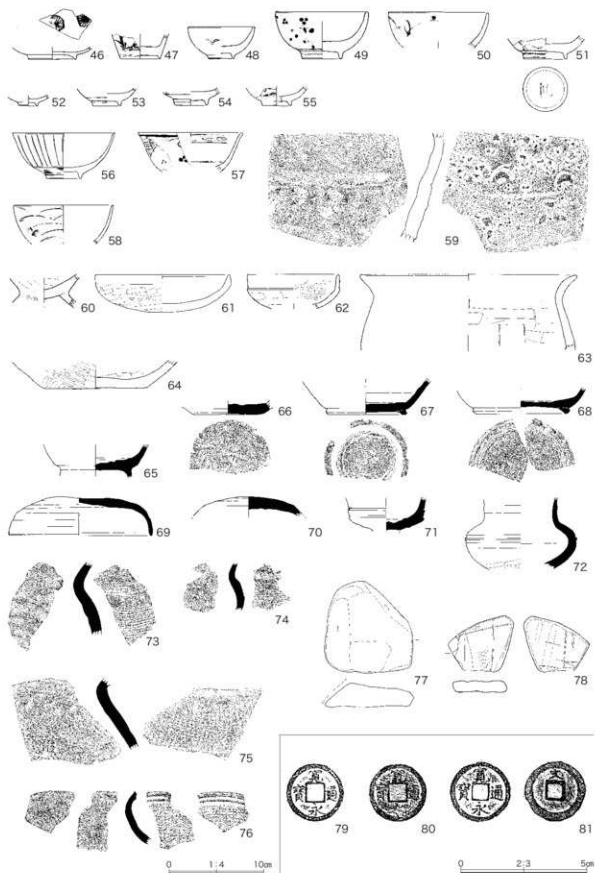
第 324 图 SD-600·973 溝状遺構 (2)



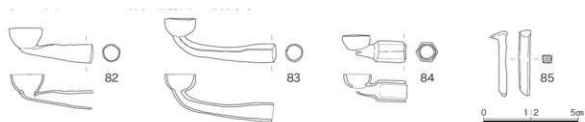
第325図 SD-600・973溝状遺構(3)



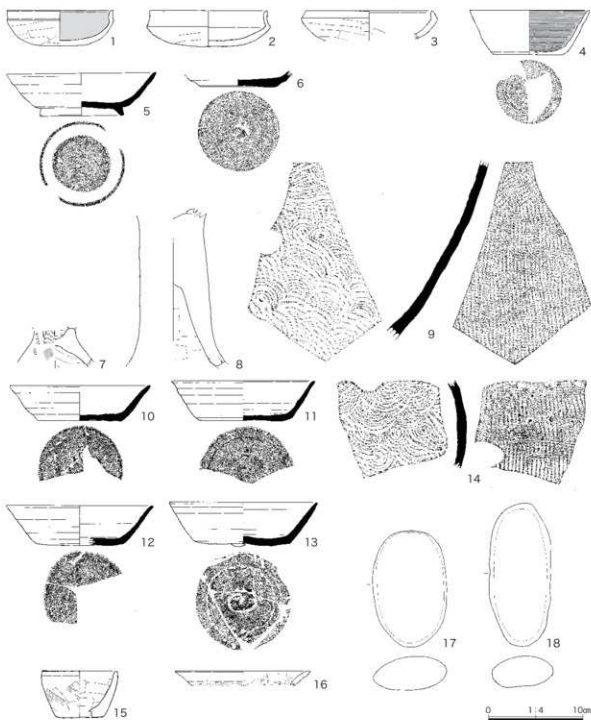
第326図 SD-600出土遺物(1)



第327図 SD-600出土遺物(2)



第 328 図 SD-600 出土遺物 (3)



第 329 図 SD-973・SX-53 出土遺物

第119表 SD-600 遺物観察表

NO. 種類 器種	法量 (cm・g)	成形・調整方法 特徴・残存状態	胎土／焼成／色調	出土位置 ／注記
326-1 土師質土器 小皿	口 (9.2) 底 (4.6) 高 2.1	ロクロ成形 見込み部強いナデ 口縁部緩く外反 (残) 1/8	砂粒多 良 10YR7/3 にぶい黄橙	覆土
326-2 土師質土器 小皿	口 (6.4) 底 (3.4) 高 2.0	ロクロ成形 口縁部やや肥厚 (残) 3/8	砂粒少 良 10YR7/3 にぶい黄橙	覆土
326-3 土師質土器 小皿	底 (4.5) 高 (1.5)	ロクロ成形 見込み部強いナデ 底部ナデ調整？ 底部中央に粘土玉を詰めた跡あり 体部と胎土異なる (残) 1/8	砂粒少 (粘土玉部分砂粒多) 良 10YR6/2 灰黄褐	覆土
326-4 土師質土器 小皿	底 (4.5) 高 (2.0)	ロクロ成形 底部回転糸切り離し？ 内面荒れ (残) 1/8	砂粒極多 良 10YR7/3 にぶい黄橙	覆土
326-5 土師質土器 小皿	底 (4.0) 高 (1.2)	ロクロ成形 内面見込み部にナデ 底部回転糸切り離し (残) 2/8	砂粒・白色粒子多・雲母少 良 7.5YR6/4 にぶい橙	J19
326-6 土師質土器 小皿	底 (4.2) 高 (1.5)	ロクロ成形 内面の調整不明 底部回転糸切り離し (残) 6/8	砂粒多 良 2.5Y7/2 灰黄	J19
326-7 土師質土器 小皿	底 (5.5) 高 (0.9)	ロクロ成形 見込み部強いナデ 底部回転糸切り離し (残) 1/8	砂粒・赤色粒子少 良 7.5YR6/4 にぶい橙	覆土
326-8 土師質土器 小皿	口 4.8 底 3.5 高 1.9	ロクロ成形 底部近く外面に強いナデ 底部へう切り離し後一方のへう削り (残) 7/8	微細な白色粒子・雲母多 やや良 2.5Y5/1 黄灰	覆土
326-9 土師質土器 小皿	口 6.2 底 3.6 高 1.6	ロクロ成形 底部近く外面に強いナデ 底部へう切り離し後一方のへう削り 油煙付着 (残) 8/8	砂粒・白色粒子少・雲母微 良 2.5Y6/2 灰黄	底面+15cm No.60
326-10 土師質土器 小皿	口 6.8 底 3.5 高 1.7	ロクロ成形 見込み部強いナデ 底部回転糸切り離し 油煙付着 (2カ所) 見込み部スス付着 外面はひび割れ れ状の剥離・全体的に黒化 (残) 8/8	砂粒・白色粒子多 良 10YR6/2 灰黄褐	底面+15cm No.30
326-11 土師質土器 小皿	口 (4.6) 高 1.7	ロクロ成形 底部回転糸切り離し (残) 1/8	砂粒多 良 2.5Y7/2 にぶい灰黄	覆土一括
326-12 土師質土器 小皿	口 (7.9) 底 (4.6) 高 1.7	ロクロ成形 見込み部強いナデ 底部回転糸切り離し ロクロ目強 (残) 3/8	砂粒多 良 10YR6/3 にぶい黄橙	覆土一括
326-13 土師質土器 小皿	底 (4.2) 高 (2.1)	ロクロ成形 底部回転糸切り離し 底部近く外面に強いナデ (残) 2/8	砂粒・白色粒子多・雲母少 二次被熱 5Y5/6 明赤褐	覆土一括
326-14 土師質土器 小皿	口 (10.8) 高 (2.6)	ロクロ成形 底部近くに沈線？ (残) 1/8	砂粒少 良 10YR7/3 にぶい黄橙	I23
326-15 土師質土器 小皿	口 (11.6) 高 (1.3)	ロクロ成形 (残) 1/8	砂粒・雲母多 良 5YR7/4 にぶい橙	J19一括
326-16 土師質土器 小皿	口 (11.2) 高 (1.4)	ロクロ成形 油煙付着 (残) 1/8	砂粒多 良 10YR7/3 にぶい黄橙	I22・J22 一括
326-17 土師質土器 小皿	底 (4.6) 高 (0.9)	ロクロ成形？ 見込み部に強いナデ 底部回転糸切り離し (残) 1/8	砂粒多 良 10YR6/3 にぶい黄橙	覆土一括
326-18 土師質土器 小皿	底 (3.2) 高 (1.4)	ロクロ成形 見込み部に弱いナデ 底部回転糸切り離し後削りへうナデ (残) 底 8/8 体 1/8	砂粒やや多・雲母微良 2.5Y7/2 灰黄	底面+10cm No.46

第3章 発見された遺構と遺物

NO. 種類 器種	法量 (cm・g)	成形・調整方法 特徴/残存状態	胎土/焼成/色調	出土位置 /注記
326-19 土師質土器 内耳鍋	破片	内外面ともナデ調整 外面スス付着	砂礫・白色粒子やや多・ 雲母少 二次被熱 10YR5/3 に近い黄褐	覆土一括
326-20 土師質土器 内耳鍋	破片	内外面ともナデ調整 内耳部外面が凹む 内外面とも荒れ 外面わずかにタール状の付着物残る	砂礫・白色粒子多・雲母 少 二次被熱 2.5Y3/1 黒	底面 +5cm No.33
326-21 土師質土器 内耳鍋	破片	内外面ともナデ調整 スス付着なし	砂礫・砂粒・雲母多 良 5YR4/4 に近い赤褐	J19 一括
326-22 土師質土器 内耳鍋	破片	内外面ともナデ調整 外面荒れ	砂粒極多 やや良 10YR4/2 灰黄褐	底面 No.57
326-23 土師質土器 内耳鍋	口 (37.8) 高 (12.2)	内外面ともナデ調整 内耳部外面が凹む 外面スス付着	白色粒子・雲母多 良 10YR5/3 に近い黄褐	覆土 No.63+ J19 一括
326-24 陶器 初皿	破片	底部回転ヘラケズリ 断面三角状の沈線を直交させる 内外面に施軸 (灰軸・外面刷毛目状) 瀬戸・美濃産	砂粒少 やや緻密 良 7.5Y6/2 灰オリブ	J19
326-25 磁器 碗?	高台径 (6.8) 底 (2.7) 高 (2.7)	削り出し高台 底部近くに強い稜 底面回転ヘラケズリ 青磁 高台内無軸 (残) 1/8	微細な白色粒子やや多 緻密 良 5Y6/3 オリブ黄	覆土
326-26 陶器 皿	底 (5.2) 高 (2.7)	内面灰軸、外面へ高台無軸 無軸部分は赤化 底面回転糸切り難し 体部クロ目強 瀬戸・美濃産? (残) 1/8	砂粒やや多 良 10YR7/2 に近い黄橙	H25
326-27 陶器 皿	高台径 4.4 高 (2.4)	白土化粧掛け 見込み蛇の目軸割ぎ 胎土が焙器化している 肥前産 17C 末～18C 初頭か? (残) 1/8	微細な白色粒子多 良 10YR7/1 灰白	I22
326-28 陶器 皿	口 (10.6) 高 (2.3)	灰軸 胎土に細かい空隙が目立つ (残) 1/8	砂礫少 やや良 5Y7/2 灰白	J21 上層
326-29 陶器 皿	口 (12.8) 高 (2.0)	削ぎ菊皿 内面に型打ちの布目痕残る 灰軸掛け流し? (残) 1/8 美濃産 17C 末～18C 中	白色粒子多 良 5Y6/2 オリブ灰	覆土一括
326-30 陶器 皿	口 (12.6) 高 (2.4)	透明軸 外面にクロ目残る (残) 1/8	白色粒子多 良 2.5Y6/1 黄灰	覆土一括
326-31 陶器 碗	底 (5.6) 高 (1.4)	灰軸 高台部内外とも無軸 胎土やや粗い (残) 高台部 3/8	黒色粒子多 良 2.5Y7/1 灰白	H25 一括
326-32 陶器 碗	底 4.6 高 (1.4)	灰軸 高台部内外とも無軸 胎土やや粗い 美濃産 (残) 高台部 8/8	白色粒子少 良 2.5Y7/2 灰黄	覆土一括
326-33 陶器 碗	底 3.7 高 (1.1)	内面灰軸 (焼き締まり悪い) 胎土やや粗い 美濃産 (残) 高台部 8/8	砂粒多 やや不良 2.5Y7/3 浅黄	覆土一括
326-34 陶器 碗	底 (3.6) 高 (4.5)	内面灰軸掛け流し 外面鉄軸 軸厚い 高台内無軸 (残) 底 2/8	微細な黒色粒子微 良 2.5GY6/1 オリブ 灰・10YR3/4 暗褐	I22・I23 一括
326-35 陶器 碗	底 (3.8) 高 (5.2)	内面へ口縁部外面鉄軸・胴へ底外面灰軸 高台内施軸 胴部踏手文 胎土やや粗い (残) 胴中へ底 8/8 瀬戸・美濃産 18C 後～19C 前	白色粒子多 良 5Y6/2 灰オリブ	J21 上 層 +J20
326-36 陶器 碗	口 (9.6) 高 (4.9)	灰軸・鉄軸掛け分け 胎土緻密 (残) 口へ胴 1/8 瀬戸・美濃 18C 中へ後	微細な白色粒子多 良 5Y7/1 灰白	覆土一括
326-37 陶器 皿	底 (6.0) 高 (1.3)	内面鉄軸 (剥離) 底面回転ヘラケズリ 胎土緻密 (残) 底 1/8	白色粒子多 良 2.5Y6/1 黄灰	覆土一括

NO. 種類 器種	法量 (cm・g)	成形・調整方法 特徴・残存状態	胎土／焼成／色調	出土位置 ／注記
326-38 陶器 壺・瓶類	底 (10.2) 高 (1.5)	灰釉 高台内施釉 底部回転糸切り離し 胎土緻密 (残) 底 1/8	白色粒子少 良 5Y6/2 灰オリーブ	覆土一括
326-39 陶器 鉢	底 (16.8) 高 (7.8)	蒔釉 腰下無釉 高台内施釉 腰下から高台にかけて刷毛目 内面見込み、高台に目跡 胎土粗い (残) 底 2/8 瀬戸・美濃系?	砂礫・白色粒子極多 2.5Y6/3 に近い黄	覆土 No.7
326-40 焼器 掘鉢	破片	焼締 口縁外帯三段 内面飾目 口縁部内面に一部凹み 胎土やや粗い 埴・明石 18C 中～19C 初?	砂粒多 良 10R4/3 赤褐	J21 上層
326-41 陶器 掘鉢	底 (14.0) 高 (4.6)	鉄釉 内面・底部外面飾目 内面見込み、高台に目跡 胎土やや粗い 瀬戸・美濃 (残) 1/8	砂粒多 良 10YR5/3 に近い黄褐	覆土一括
326-42 陶器 急須注口	破片	鉄釉 二穴 焼締めやや不良 胎土緻密	白色粒子少 やや良 10YR4/1 褐灰	J21 上層
326-43 陶器 灯明皿	口 (9.8) 高 (1.4)	灰釉 外面体部下位無釉 外面に油煙あり 胎土緻密 (残) 2/8	白色粒子多 良 2.5Y6/4 に近い黄	J23
326-44 陶器 香炉	底 5.5 高 (2.6)	外面鉄釉 内面・高台無釉 内面見込み、高台に目跡 口クロ・削り高台 胎土緻密 (残) 底 8/8 瀬戸・美濃	白色粒子微 良 10YR6/3 に近い黄橙	覆土一括
326-45 陶器 香炉?	底 (7.5) 高 (1.5)	有三足 内面灰釉 外面無釉、スス付着 底部極薄い 胎土緻密 (残) 底 2/8	黒色粒子微 良 2.5Y6/1 黄灰	覆土一括
327-46 磁器 皿	底 (5.0) 高 (1.3)	染付・呉須・透明釉 コンニャク印判(菊文) 高台砂目 胎土緻密 (残) 高台部 2/8 肥前	良 白色	J21 上層
327-47 磁器 壺口	底 4.2 高 (2.7)	染付・呉須・透明釉 高台砂目 草花文 胎土緻密 (残) 底部 8/8 肥前	良 白色	覆土一括
327-48 磁器 碗	口 (7.0) 底 (2.8) 高 3.4	染付・呉須・透明釉 高台砂目 草花文? 胎土緻密 (残) 高台部 8/8 口 2/8 肥前 (波佐見・くらわんか手)	良 白色	覆土一括
327-49 磁器 碗	口 (9.8) 底 (4.2) 高 5.0	染付・呉須・透明釉 高台砂目 雪輪梅樹文 裏底銘(太明年製?) 胎土緻密 (残) 高台部 3/8 口 3/8 肥前 (波佐見・くらわんか手)	良 白色	J22 一括
327-50 磁器 碗	口 (10.4) 高 (3.8)	染付・呉須・透明釉 梅樹文? 軸白濁 胎土緻密 (残) 口 3/8 肥前 (くらわんか手)	良 白色	覆土一括
327-51 磁器 碗	底 4.6 高 (2.5)	染付・呉須・透明釉 梅樹文? 裏底銘(太明年製) 高台砂目 高台に砂礫付着(目跡?) 胎土緻密 (残) 底 8/8 肥前 (くらわんか手)	良 白色	J21 上層
327-52 磁器 小杯?	底 (2.0) 高 (1.1)	透明釉 高台砂目 胎土緻密 (残) 底 2/8 肥前	良 白色	覆土一括
327-53 磁器 碗	底 (3.0) 高 (2.0)	染付・呉須・透明釉 高台砂目 軸白濁 胎土緻密 (残) 底 3/8 肥前	良 白色	J22 一括
327-54 磁器 碗	底 (3.2) 高 (2.0)	染付・呉須・透明釉 高台砂目 軸白濁 胎土緻密 (残) 底 4/8 肥前	良 白色	覆土一括
327-55 磁器 碗	底 (3.2) 高 (1.1)	染付・呉須・透明釉 高台砂目 軸に気泡が見られる 胎土緻密 (残) 底 3/8 肥前	良 白色	H25 一括
327-56 磁器 碗	口 10.4 底 3.6 高 4.6	コバルトによる絵付 高台近くの花弁状模様はプリント 全体に透明釉 高台端は無釉(高台内施釉) 明治以降	胎土ガラス化 白色	No.6

第3章 発見された遺構と遺物

NO. 種類 器種	法量 (cm・g)	成形・調整方法 特徴/残存状態	胎土/焼成/色調	出土位置 /注記
327-57 磁器 碗	口 10.2 高 (4.5)	呉須による絵付け 全体に透明釉 明治以降	胎土ガラス化 白色	H25
327-58 磁器 碗	口 10.6 高 4.1	呉須による絵付け (青海波) 全体に透明釉 明治以降	胎土ガラス化 白色	H25
327-59 陶器 壺	破片	(内) ロクロナデ→粗いヘラナデ (外) ロクロナデ? 外面にスタンプ文 (二つ凹?) 外面に多量の灰付着 外面施釉 (灰釉) 常滑産	砂礫・黒色粒子極多 やや不良 10YR5/2 リーブ灰	底面 No.55
327-60 土師器 台付甕	高 (2.5)	(内) 弱いナデ (外) 弱いナデ+ハケメ 内面スス付着 全体的に赤化 (残) 台部上半8/8	砂粒極多 二次被熱 7.5YR6/6 橙	覆土一括
327-61 土師器 杯	口 14.2 高 4.0	(内) ヨコナデ (外) 口ヨコナデ体ヘラケズリ 内へ口外漆仕上げ 全体的に摩滅 (残) 5/8	黒色粒子・白色粒子少・ 雲母微 良 5YR4/6 赤褐	覆土 No.18
327-62 土師器 杯	口 (9.8) 高 (3.6)	(内) 口ヨコナデ放射状のミガキ (外) 口ヨコナデ体ヘラケズリ 全体的に摩滅 (残) 3/8	白色粒子・砂粒多・雲母 微 良 7.5YR4/6 褐	H25一括
327-63 土師器 壺	口 (22.9) 高 (8.0)	(内) 口ヨコナデ体ヘラナデつけ (外) 口ヨコナデ体不明 全体的に摩滅 (残) 1/8	白色粒子・砂粒極多・砂礫・ 雲母多 良 5YR4/4 にぶい赤褐	覆土一括
327-64 土師器 壺	底 (10.8) 高 (3.0)	(内) ヘラナデ? (外) 斜め方向のヘラミガキ・底部一方のヘラミガキ 外面黒色化 (残) 2/8	白色粒子・砂礫極多 やや良 外:N2/黒 内:10YR7/3 にぶい黄褐	H25一括
327-65 須恵器 杯	底 (7.4) 高 (3.3)	(内) ロクロナデ (外) ロクロナデ 底部回転ヘラケズリ 高台付 (残) 底部3/8 益子産	白色粒子多・砂礫少 やや良 N3/ 暗灰	底面+10cm No.1
327-66 須恵器 杯	底 (8.0) 高 (1.5)	(内) ロクロナデ (外) ロクロナデ 底部手持ちヘラケズリ 底部にヘラ記号有り (残) 4/8 益子産	白色粒子・砂礫多・雲母 微 良 7.5Y5/1 灰	J22一括
327-67 須恵器 杯	底 (8.8) 高 (4.0)	(内) ロクロナデ (外) ロクロナデ 底部回転ヘラケズリ 高台付 (残) 底部6/8 益子産	砂礫極多・白色粒子多 良 N4/ 灰	底面 No.23+27+ H25ブロッコ1
327-68 須恵器 杯	底 (10.2) 高 (2.5)	(内) ロクロナデ (外) ロクロナデ 底部回転ヘラケズリ 高台付 接合痕あり (2条の平行沈線) 底部にヘラ記号有り (残) 底部3/8 産地不明	白色粒子多・砂礫少 良 N5/ 灰	J21一括 +H25一括
327-69 須恵器 蓋	端 (14.8) 高 4.1	(内) ロクロナデ (外) ロクロナデ→天井部回転ヘラケズリ 天井部歪む 端部に自然釉 (残) 1/8 産地不明	砂粒・白色粒子・黒色粒 子多 やや良 2.5Y6/1 黄灰	覆土一括
327-70 須恵器 蓋	高 (2.0)	(内) ロクロナデ (外) ロクロナデ→天井部回転ヘラケズリ (残) 天井部6/8 益子産?	白色粒子極多・砂礫多 良 N5/ 灰	底面+10cm No.47
327-71 須恵器 高杯	杯部径 (8.6) 高 (3.5)	(内) ロクロナデ (外) ロクロナデ 杯部の底部回転ヘラケズリ 杯部の体部中央に2条の沈線 脚部との接合部に同心円状の接合痕 (残) 5/8 産地不明	白色粒子・砂粒多・砂礫 少 良 5Y5/1 灰	覆土 No.66
327-72 須恵器 壺	大 (11.8) 高 (7.7)	(内) ロクロナデ (外) ロクロナデ 底部近く手持ちヘラケズリ 胴部最大径部分に削り出しの文帯 (残) 1/8 東海産?	微細な白色粒子多・雲母 微 良 N6/ 灰	底面 No.8
327-73 須恵器 瓶類	破片	(内) ロクロナデ→ヘラナデ (外) 口ヨコナデ体カキメ 内面の調整粗い 東海産?	微細な白色粒子多 やや良 N6/ 灰	J20一括
327-74 須恵器 瓶類	破片	(内) ロクロナデ (外) ロクロナデ→カキメ 産地不明	白色粒子多 良 N5/ 灰	J22一括
327-75 須恵器 壺	破片	(内) 同心円状当て具痕 (外) 平行タタキ→カキメ 外面自然釉 タタキ・当て具痕弱い 産地不明	砂粒少・微細な白色粒子 微 やや良 2.5Y6/1 黄灰	底面+5cm No.14

NO. 種類 器種	法量 (cm・g)	成形・調整方法 特徴・残存状態	胎土／焼成／色調	出土位置 ／注記
327-76 須恵器 甕	破片	(内) ヨコナデ (外) 口ヨコナデ頸格子目状タタキ→波状櫛描文 口唇部断面三角状の突起 産地不明	砂粒・微細な白色粒子多・ 雲母少 やや不良 2.5Y7/2 灰黄・2.5Y3/1 黒褐	底面 No.58・ J21 一括
327-77 石製品 砥石?	長 9.7 幅 9.3 厚 2.6	両側面が使用面 (右側面に光沢あり) 表面に弱い敲打痕	5Y4/2 灰オリーブ	J20 一括
327-78 石製品 砥石?	長 5.9 幅 6.9 厚 1.2	(表) 筋状の使用痕 (裏) 浅い溝状の凹凸 側面にも細かい擦痕あり 弱い被熱	5Y6/1 灰	J22 一括
327-79 銅製品 銭	外縁径: 2.47 外縁幅: 0.23 外縁厚: 0.15 孔幅 0.6 重 1.80 寛永通宝 (新寛永)。			覆土
327-80 銅製品 銭	外縁径: 2.30 外縁幅: 0.20 外縁厚: 0.10 孔幅 0.6 重 2.33 寛永通宝 (新寛永)。			No.38
327-81 銅製品 銭	外縁径: 2.48 外縁幅: 0.25 外縁厚: 0.2 孔幅 0.5 重 3.07 寛永通宝 (文銭)。背紋有り。			J21
328-82 銅製品 キセル雁首	最大長: 4.5 羅字結合部長: 3.9 羅字結合部径: 1.05 火受部径: 1.8 最大高: 1.4 重 5.02 火受部に接合痕あり。継ぎ目無し。			覆土
328-83 銅製品 キセル雁首	最大長: 5.9 羅字結合部長: 5.4 羅字結合部径: 1.0 火受部径: 1.65 最大高: 2.1 重 6.70 継ぎ目左。			覆土上層
328-84 鉄製品 キセル雁首	最大長: 3.4 羅字結合部長: 2.6 羅字結合部径: 1.1 火受部径: 1.4 最大高: 1.4 重 6.58 鉄製のキセル雁首で、羅字が残存している (竹か?)。羅字結合部は断面六角形。火受部下が 一部欠け。			覆土上層
328-85 鉄製品 釘	長 3.4 幅 0.6 厚 0.5 重 3.60 断面方形の釘。上端が折れ曲がる。			覆土上層

遺物 SD-600 溝状遺構の出土遺物は、古墳時代の土師器・須恵器から近現代の磁器まで、幅広い年代のものが出土している。底面から出土した遺物については先に述べたとおり中世以前のものである。覆土中からは、他の遺構からはほとんど出土していない中世陶器や土師質土器、近世陶磁器が多く出土している。中世陶器・土師質土器 (第 326 図 1～27・第 327 図 59) はほとんどが破片の状態で、全体を復元できる個体は少ない。近世陶器 (第 326 図 28～45) も破片状態のものが多く、第 327 図 56～58 は近代以降の磁器と考えられる。第 327 図 60～76 は、古墳時代から古代の遺物である。底面から覆土中までまんべんなく出土しており、その多くが周辺住居からの流れ込みのものと考えられる。土器・陶磁器以外の遺物としては、銅銭 (第 327 図 79～81)、キセルの雁首 (第 328 図 82～84)、釘 (第 328 図 85) が出土している。図化はできなかったが、底面から渡来銭 (悪銭・欠け 天聖元宝か?) が 1 点出土している。

SX-53・SD-973 からは古墳時代から古代にかけての遺物が出土しており、ほぼ全てが底面からの出土である (第 329 図 1～18)。このうち、第 329 図 4 の外面には墨書らしき痕跡が残っているが、赤外線をあてても解読できなかった (図版六一)。

第3章 発見された遺構と遺物

第120表 SX-53・SD-973 遺物観察表

NO. 種類 器種	出土 遺構	量 (cm・g)	成形・調整方法 特徴・残存状態	胎土/焼成/色調	出土位置/注記
329-1 土師器 杯	SX-53	口 (9.2) 高 (3.7)	(内) ヨコナデ (外) 口ヨコナデ体ヘラケズリ、 底部近くヘラナデ 内面黒色処理 内外面に タール状の黒色付着物 (漆?)	白色粒子多・砂礫少 やや良 2.5Y4/1 黄灰	底面 SX-53-8
329-2 土師器 杯	SX-53	口 (12.5) 高 (3.5)	(内) ヨコナデ (外) 口ヨコナデ体ヘラケズリ? 内面へ口外縁仕上げ	白色粒子少 やや良 10YR7/4 に近い黄褐色	底面 SX-53-16 +G・H25 一括
329-3 土師器 杯	SX-53	口 (13.4) 高 (3.2)	(内) ヨコナデ (外) 口ヨコナデ体ヘラケズリ 内面へ口外縁仕上げ	白色粒子・砂礫多 良 10YR5/4 に近い黄褐色	G・H25 一括
329-4 土師器 杯	SD-973	口 (12.6) 底 (7.2) 高 (4.7)	(内) ロクロナデ→横方向の密なミガキ (外) ロクロナデ→底部回転ヘラケズリ ロクロ成形 外面に墨書あり (字体不明) 内面黒色処理	砂礫少・雲母微 良 10YR5/4 に近い黄褐色	底面 SX-53-5+G・H25
329-5 須恵器 杯	SD-973	口 (15.8) 底 9.0 高 4.5	(内) ロクロナデ (外) ロクロナデ→底部回転糸切り離し 高台付 (残) 口 3/8 底 8/8 益子産	白色粒子多・砂礫少 良 10Y5/1 灰	底面 SX53-6+ SD973-23+SD973 G24・H24 一括
329-6 須恵器 杯	SD-973	底 (8.2) 高 (1.3)	(内) ロクロナデ (外) ロクロナデ 底部回転 ヘラ切り離し後弱いナデ 底部ヘラ切り離し による粘土塊が付着 (残) 底 8/8 益子産	白色粒子・砂礫多 良 10Y5/1 灰	SX-53-1
329-7 土師器 台付甕	SX-53	台座径 4.4 高 (4.3)	(甕部内・台部内) 弱い指ナデ (台部外) ハケメ 全体的に摩滅 (残) 脚部 4/8	砂礫少・雲母微 やや良 7.5YR5/4 に近い褐色	底面 SX-53-9
329-8 土師器 高杯	SX-53	脚部径 7.1 高 (16.6)	(脚部内) 下部弱いヘラナデ 上部調整なし (脚部外) 摩滅により不明 (ヘラケズリ?) 上端杯部接合面で欠損 (残) 脚部 8/8	砂礫・砂礫多 二次被熱 10YR5/6 黄褐色	底面 SX-53-17
329-9 須恵器 甕	SD-973	破片	(内) 同心円状当て具痕 (外) 平行タタキ→カキメ 産地不明	微細な白色粒子・黒 色融解粒多 良 5PB6/1 黄灰	底面 SX-53-2・7
329-10 須恵器 杯	SD-973	口 (14.5) 底 (9.0) 高 (3.6)	(内) ロクロナデ (外) ロクロナデ 底部回転ヘラ切り離し後弱いナデ調整 (残) 4/8 益子産	砂礫・白色粒子多 黒色融解粒少 良 5GY5/1 オリーブ灰	覆土 SD-973-3 +SX-53G・H25 一括
329-11 須恵器 杯	SD-973	口 (15.2) 底 (9.2) 高 (4.2)	(内) ロクロナデ (外) ロクロナデ 底部回転 ヘラ切り離し後ナデ調整 底部ヘラ記号? 口端部外面が黒変 (残) 2/8 益子産	砂礫・白色粒子多 良 N4/ 灰	SD-973-1+H25 一 括
329-12 須恵器 杯	SD-973	口 (15.4) 底 (9.4) 高 (4.0)	(内) ロクロナデ (外) ロクロナデ 底部回転ヘラ切り離し後手持ちヘラケズリ 口端部外面が黒変 (残) 5/8 新治産	白色粒子・砂礫極多 やや良 5Y5/1 灰	底面 SD-973-16+ 17+G・H24+SX-53 G・H24+SD-970H21
329-13 須恵器 杯	SD-973	口 (15.6) 底 (10.4) 高 (4.7)	(内) ロクロナデ (外) ロクロナデ 底部回転 ヘラ切り離し後調整なし 底部ヘラ切り離し による粘土塊が付着 (残) 8/8 益子産?	白色粒子多・砂礫少 不良 5YR4/3 に近い赤褐色	G・H25・24 +SX-53G・H25 +SX-53G・H24
329-14 須恵器 甕	SD-973	破片	(内) 同心円状当て具痕 (外) 平行タタキ→カキメ 外面灰付着 産地不明	黒色融解粒多・白色 粒子やや多 良 5Y6/1 灰	底面 SD-973-2
329-15 土師器 ミニチャ 土器	SD-973	口 (8.0) 底 (5.2) 高 (4.9)	(内) ヘラナデ (一部ハケメ?) (外) 口ヨコナデ体ハケメ 底部やや膨らむ (残) 2/8	白色粒子・砂礫多 砂礫少 やや良 7.5YR5/6 明褐色	G24・H24 一括
329-16 土師器 甕	SD-973	口 (14.2) 高 (1.6)	内外面ともヨコナデ→ハケメ (残) 1/8	砂礫・白色粒子多 砂礫少 やや良 10YR5/4 に近い黄褐色	覆土 SD-973-19 +23+G24 +H24 一括
329-17 甕	SD-973	長 12.3 幅 7.7 厚 3.5 重 492.6	全体的に擦痕 上端に敲打痕あり	N7/ 灰	底面 SD-973-22
329-18 甕	SD-973	長 15.1 幅 6.4 厚 3.2 重 479.3	全体に弱い擦痕	7.5Y6/1 灰 礫岩	底面 SD-973-21

(2) 井戸状遺構・円筒形土坑

中世・近世の井戸状遺構及び円筒形土坑は7基確認された。両者の分類は便宜的なもので、円筒形土坑は底面が平坦で断面が円筒形を呈するもの、それ以外を井戸状遺構としている。中世・近世の井戸状遺構・円筒形土坑および次項で扱う土坑のうち、SK-594とSE-591を除く遺構は全てSD-101・1050・1187で囲まれた方形の区画内に位置している。また、中世・近世の井戸状遺構は低地Aの北側にのみ確認されている。

SK-331 (第330図・図版四〇)

位置 K32グリッドに位置する。東側でSK-364を切る。規模・形状 上面が径120cm、底面が径85cmの円筒形を呈し、底面はやや膨らんでいる。確認面からの深さは約130cmである。覆土 他の遺構に比べ、色調の暗い覆土が堆積している。底面近くにはロームブロックと黒褐色土が薄い層状に堆積しており、その中に灰を主体とする薄い層が確認された(7層)。この層内に須恵器片が含まれていたと記録されていたが、調査中に遺物を紛失してしまったため、時期を比定できるものか否か確認できなかった。

SE-590 (第330・331図・図版四〇)

位置 K32グリッドに位置する。東側でSK-364を切る。規模・形状 上面が長径215cm、短径182cm、底面が径60cmの円筒形を呈し、底面はやや膨らんでいる。上面はラッパ状に開いている。確認面からの深さは約240cmである。覆土 上面には内容物をあまり含まない暗褐色土が厚く堆積している。中位から下は、ロームブロックを主体とする黄褐色土と、ローム粒を多量に含む暗褐色土が薄く交互に堆積している。また、最下層はローム粒と砂粒を含む暗褐色土が厚く堆積していた。遺物 上面の1・2層中から須恵器片や須恵質埴鉢、砥石の破片が出土している(第331図1～4)。

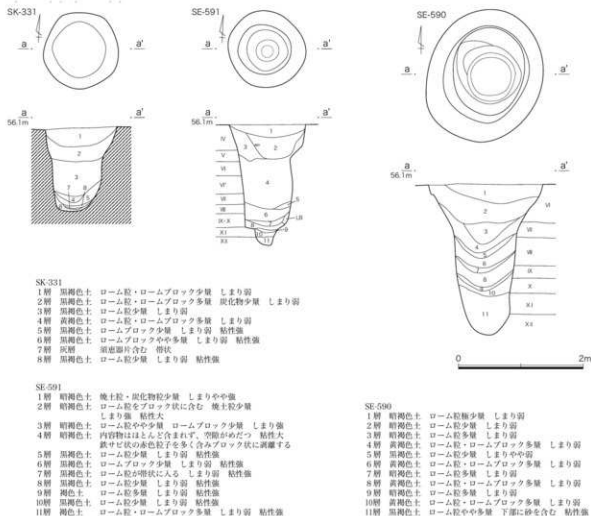
SE-591 (第330・331図・図版四〇)

位置 M27グリッドに位置する。規模・形状 上面が径125cm、底面が径70cmの円筒形を呈する。底面には、径34cmビット状の掘り込みが確認された。確認面からの深さは約190cmである。覆土 中位に厚い暗褐色土の堆積層が確認された。この層は空隙が目立ち、他の井戸状遺構では見られなかった鉄錆状の赤色粒子が多く含まれており、他の井戸状遺構よりも水被による土中铁分の錆化が進んでいるものと考えられる。底面近くはロームを多く含む褐色土と、ロームが少ない黒褐色土が薄く交互に堆積している。遺物 覆土上層から須恵器片と扁平な礫が出土している(第331図6・7)。備考 古代の円形有段遺構である可能性も考えたが、県内で確認されている当該遺構に比べ規模が小さいこと、時期を比定する材料に欠けることから、中世・近世の井戸状遺構として掲載した。

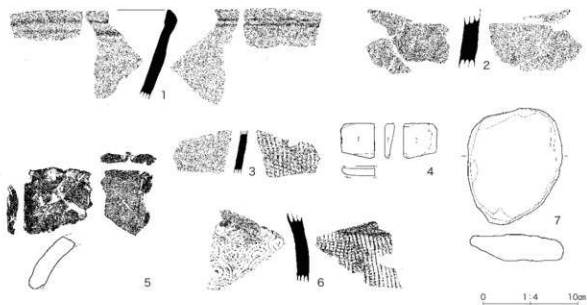
SK-283 (第332・333図・図版三九)

位置 K32グリッドに位置する。東側約1.5mにSE-590が位置する。規模・形状 上面が径107cm、底面が径65cmの円筒形を呈し、底面は平坦である。確認面からの深さは約170cmである。断面図には図示できなかったが、壁面には所々小さい凹みがあり、足かけ穴とも考えられる。覆土 井戸中位から確認面にかけては、内容物をあまり含まない暗褐色土が厚く堆積している。下部はローム粒やロームブロックを多く含む暗褐色土や褐色土、ロームブロックを主体とする黄褐色土が薄い層状に堆積している。しまりは全体的に弱く、粘性は下層ほど強い。遺物 磨石状の礫が1点出土している(第333図1)。

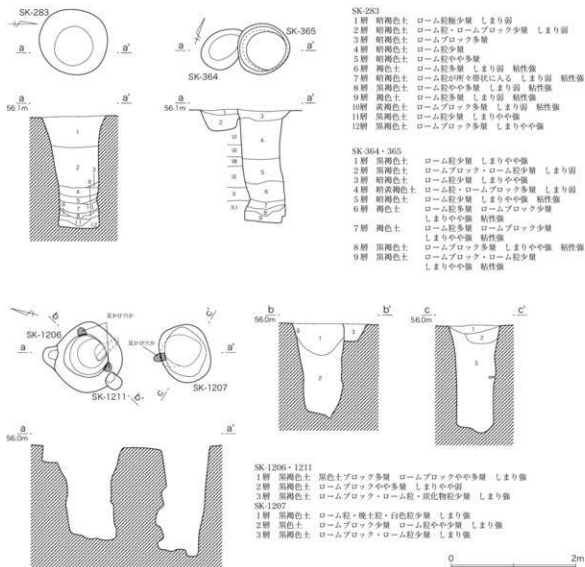
第3章 発見された遺構と遺物



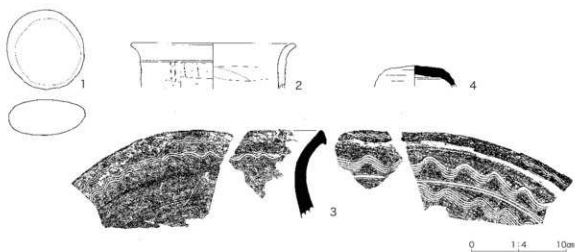
第330図 SK-331・SE-590・591



第331図 SE-590・591出土遺物



第332図 SK-283・364・365・1206・1207・1211



第333図 SK-283・365・1206出土遺物

SK-365 (第332図・図版四〇)

位置 K29 グリッドに位置する。東側でSK-364を切る。規模・形状 上面が径80cm、底面が径57cmの円筒形を呈し、底面は平坦である。確認面からの深さは約175cmである。覆土 中位から確認面にかけては、内容物をあまり含まない黒褐色土が厚く堆積している。下部はローム粒・ロームブロックを多く含む土層、底面には黒褐色土が薄く堆積している。井戸中位(4層)はしまりが弱い、他の部分はしまり、粘性共に強い。遺物 土師器甕、須恵器甕の破片が出土している(第333図2・3)。3の同一個体片は、周辺の溝状遺構SD-101・102・106・112に散在しており、その中のSD-106出土の破片と遺構間接合している。

SK-1206・1207 (第332・333図・図版三九)

位置 L35 グリッドに位置し、東側約6mにSK-1188が位置している。規模・形状 SK-1207は上面が径約1m、底面が径約70cm、深さ170cmの円筒形を呈する。SK-1207は、上面が長径90cm、短径約80cm、底面が径約60cm、深さ140cmの円筒形を呈する。SK-1206は壁面中位に足かけ穴状の小さい凹みが二カ所確認されており、底面には細い溝状の掘り込みがあった。SK-1207も壁面中位に1カ所足かけ穴状の小さい凹みがあり、それよりも下の壁面および底面は凹凸が著しい。覆土 いずれも黒褐色土が厚く堆積している。SK-1206上面には、黒色土ブロック及びロームブロックを多量に含む土層が堆積している。SK-1207の覆土には、内容物はあまり含まれない。遺物 SK-1206から須恵器蓋の破片が出土しているが、出土位置が覆土中一括のため、直接遺構の時期を示すものか否かは判断できない。

第121表 井戸状遺構・円筒形土坑遺物観察表

NO. 種類 器種	出土 遺構	法量 (cm・g)	成形・調整方法 特徴・残存状態	胎土/焼成/色調	出土位置 /注記
331-1 須恵器 捏鉢?	SE-590	破片	内外面とも丁寧なナデ 内面口縁部に浅い稜 産地不明	白色粒子・砂粒やや多 良 N5/ 灰	覆土
331-2 須恵器 甕	SE-590	破片	(内) ナデ (外) 平行タタキ? 外面摩滅 益子産?	白色粒子・砂粒多 やや不良 10Y4/1 灰	覆土
331-3 須恵器 甕	SE-590	破片	(内) 同心円状当て具痕 (外) 平行タタキ+平行沈線 産地不明	白色粒子多 良 N5/ 灰	覆土
331-4 石製品 砥石	SE-590	長 3.7 幅 3.6 厚 2.5 重 17.75	3面使用 表・裏面は摩滅して平滑化 右側面に刃潰し痕	2.5YR4/4 赤褐 泥岩	覆土
331-5 丸瓦	SE-590	狭帯破片	凸面ナデ。凹面布目痕。凸面にキズ多い。上端、 左側縁が残存。	砂粒・白色粒子多 やや硬質 N5/ 灰	覆土
331-6 須恵器 甕	SE-591	破片	(内) 同心円状当て具痕 (外) 平行タタキ 口縁部近くナデ 産地不明	白色粒子多 良 N4/ 灰	覆土
331-7 礎	SE-591	長 12.3 幅 9.9 厚 2.7 重 471.7	板状の自然礫 周縁が摩滅	5Y5/2 灰オリーブ 砂岩	
333-1 礎	SK-283	長 8.4 幅 8.1 厚 3.3 重 340.0	正門に近い 両側面の平坦面には擦痕あり	2.5Y4/1 黄灰	覆土
333-2 土師器 甕?	SK-365	口 (17.2) 高 (5.2)	(内) ロコナデ削削いへラナデ (外) ロコナデ削ヘラケズリ 頸部に強い凹線 (残) 1/8	砂粒多 良 7.5YR3/3 暗褐	覆土
333-3 須恵器 甕	SK-365	破片	(内) 横方向のナデ+櫛描の波線 (外) 口横方向の ナデ+櫛描の波線 櫛格子目状タタキ→ナデ消す →櫛描の波線 口端部外面に折り返し 三叠産?	雲母やや多・小砂粒微 緻密 やや不良 7.5Y7/1 灰白	覆土 SD-101・ 102・106・112 は同一個体有
333-4 須恵器 蓋	SK-1206	高 (2.9)	(内) ロコナデ (外) 天井部回転ヘラケズリ 天井部内面口クロ目強 産地不明	白色粒子多・黒色融解 粒やや多 良 7.5YR5/1 灰	覆土

(3) 土坑

中世・近世の土坑は3基確認されている。これらの時期比定については、SK-593、SK-353は中世・近世の溝状遺構よりも古いもので、古墳時代から平安時代の遺構覆土とは異なる特徴が見られること、SK-60はSK-353と規模・形状がよく似ていることを根拠としている。SK-1188については古代の円形有段遺構と考えられる特徴もあるが、SE-590と同様に規模が小さく、時期を比定する材料にとばしいことから、この項で扱った。

SK-60 (第335図)

位置 J28 グリッドに位置し、SI-15・59 竪穴住居跡を切る。規模・形状 上面は長径135cm、短径96cmの楕円状、底面は長辺径115cm、短辺径73cmの楕円形を呈する。壁面は底面近くで大きくオーバーハングしている。覆土 上層(1・2層)は内容物をほとんど含まないが、3層以下はロームブロックやローム粒が多量に含まれている。また、6・7層は特にロームブロックを多く含む黄褐色土層である。全体的にしまりは弱い。遺物は出土しなかった。

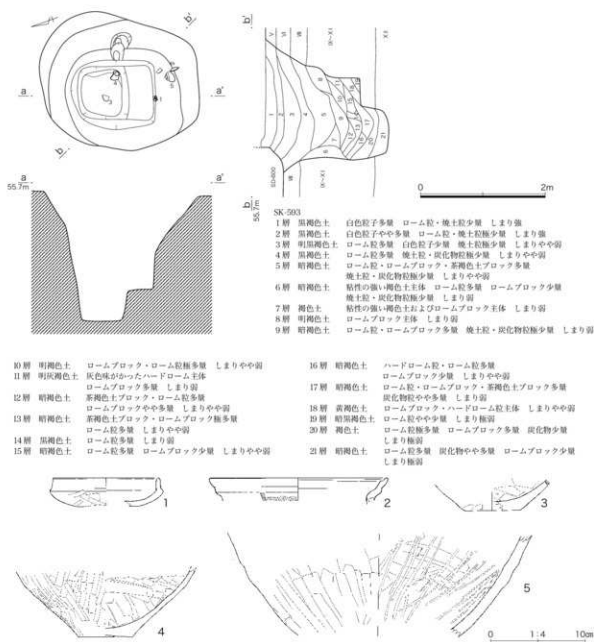
SK-353 (第335図・図版四一・六〇)

位置 K31 グリッドに位置し、SI-23 竪穴住居跡より新しく、SD-102 溝状遺構より古い。規模・形状 上面は長径140cm、短径100cmの楕円状、底面は長径118cm、短径70cmの楕円形を呈する。壁面は底面近くで大きくオーバーハングしており、断面形状は袋状を呈する。覆土 底面に粘土質のローム土が堆積している(7層)他は、暗褐色土を主体とする。ロームブロックを多く含む土層と含まない土層が交互に堆積している。全体的にしまりは弱い。上層に近い3・4層はSI-23 竪穴住居跡の覆土によく似ていることから、SK-353の廃絶後にSI-23 竪穴住居跡の覆土が再流入したものと考えられる。遺物 上層から土師器環と小型甕が出土したが(第67図3・4)、出土層位がSI-23 竪穴住居跡覆土からの流入と考えた3・4層中のため、これらの遺物もSI-23 竪穴住居跡からの流入と考えた。よって、SK-353に伴う出土遺物はない。

SK-593 (第334図・図版四一)

位置 I24 グリッドに位置する。東側上面がSD-600 溝状遺構に切られる。規模・形状 上面が長径251cm、短径211cmのやや方形にちかい楕円状を呈し、底面が長径130cm、短径110cmの長方形を呈する。底面にはさらに、段状に下がる方形の掘り込みが確認された。北西部の壁はやや開きながら立ち上がるが、その他の部分はほぼ直に立ち上がる。東壁の中ほどには、段状に掘り込まれた凹みが縦に伸びており、足かけ穴と考えられる。覆土 上層(1～3層)は内容物をあまり含まない黒褐色土、中層(4～9層)はブロック状の褐色土やローム土、茶褐色土ブロックを多量に含む暗褐色土や明褐色土が堆積している。下層(10～21層)ブロック状の褐色土やローム土を含む土層と、粒子状のローム土を含む土層が薄く交互に堆積している。遺物 確認面から土師器環や甕の破片が出土している(第334図1～5)が、SK-593一帯は表土直下の低地堆積層に古墳時代の遺物が多く含まれていることから、これらの遺物は直接遺構の時期を示すものではないと考えた。備考 SD-600 溝状遺構との切り合い関係から、それよりも古い時期の遺構であることは間違いないが、SD-600は近世以降に少なくとも1回以上の掘り返しが行われていることから、SK-593の時期も近世以前のものであると考えられる。

第3章 発見された遺構と遺物



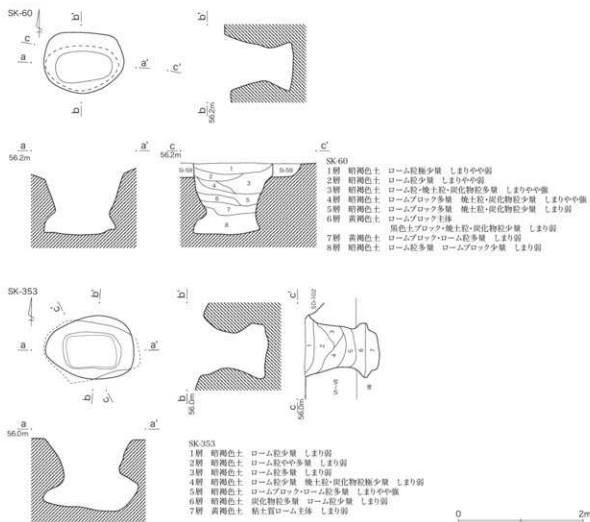
第334図 SK-593および出土遺物

SK-1188 (第336図・図版四一)

位置 K35 グリッドに位置する。SI-1019 堅穴住居跡のカマド部分を切っている。規模・形状 上面が長径203cm、短径161cm、底面が長径100cm、短径80cmの楕円形を呈する。壁の中ほどが帯状にオーバーハングしている。また、壁面には足かけ穴状の小さい凹みが2カ所確認されている。底面には楕円形の掘り込みが認められた。覆土 確認面から約90cmまで、内容物をあまり含まない暗黒褐色土が厚く堆積している。その下からオーバーハング部分上部までは、暗褐色土と黒褐色土が薄く交互に堆積し、特に5層には砂が含まれていた。さらにその下には、ロームブロックや焼土粒、炭化物粒が多く含まれる暗褐色土がやや厚く堆積している。最下層の9層からは、須恵器甕の破片及び磨石状の礫、破砕礫が出土した(第336図3～5)。遺物 上記の遺物の他に、上層から須恵器甕、蓋の破片が出土している(第336図1・2)。

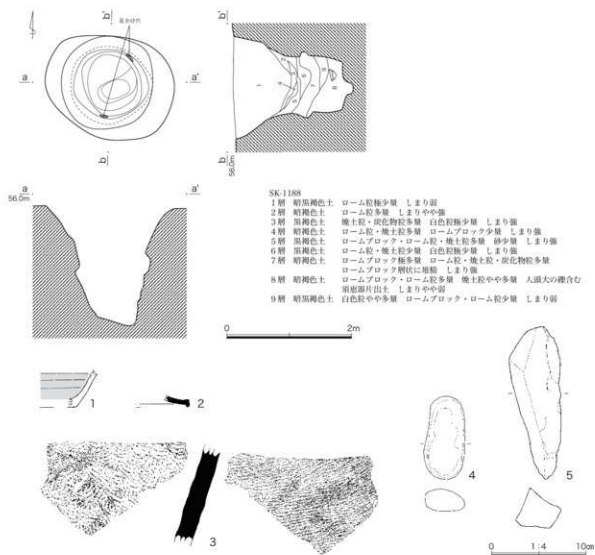
第122表 SK-593 遺物観察表

NO. 種類 器種	法量 (cm・g)	成形・調整方法 特徴・残存状態	胎土／焼成／色調	出土位置 ／注記
334-1 土師器 環	口 (11.1) 大 (12.0) 高 (3.0)	(内) ヨコナデ (外) ヨコナデ 胴ヘラケズリ 内面～胴上外面まで仕上げ (残) 1/8	砂礫多・白色粒子多 良 7.5YR3/1 黒褐	確認面 No.3
334-2 土師器 甕	口 (18.3)	(内) ヨコナデ (外) ヨコナデ・頸部から下ハケメ 口縁部S字状 (残) 1/8以下	砂礫・白色粒子多・雲母少 良 7.5YR5/6 明褐	覆土
334-3 土師器 甕	底 (5.9) 高 (3.3)	(内) ヘラケズリ (外) 丁寧なナデ (残) 1/8	砂礫・砂粒多・白色粒子少・ 雲母微 良 10YR5/4 にぶい黄褐	確認面 No.6
334-4 土師器 甕	底 (5.8) 高 (6.9)	(内) ヘラケズリ (外) 胴下・底ヘラケズリ 内面に幅広の輪積痕 (残) 2/8	砂礫・白色粒子多 良 10YR5/4 にぶい黄褐	確認面 No.7
334-5 土師器 甕	残 (32.2) 高 (10.7)	(内) ヘラナデ→粗いミガキ (外) ヘラケズリ (残) 2/8	白色粒子・砂粒多・砂礫や や多 良 5YR4/8 赤褐	確認面 No.2 + 5



第335図 SK-60・353

第3章 発見された遺構と遺物



第 336 図 SK-1188 および出土遺物

第 123 表 SK-1188 遺物観察表

NO. 種類 器種	法量 (cm・g)	成形・調整方法 特徴・残存状態	胎土・焼成/色調	出土位置/注記
336-1 土師器 坏	破片	(内) ロクロナデ→底細かいミガキ (外) ロクロナデ→胴下～底回転ヘラケズリ 内面黒色処理	白色粒子・雲母やや多 良 10YR3/3 暗褐	上層
336-2 須恵器 蓋	破片	内外面ともロクロナデ 益子産?	砂粒・白色粒子多 良 N4/ 灰	上層
336-3 須恵器 甕	破片	(内) 同心円状当て具痕 (外) 縄目状タタキ 産地不明	白色粒子・黒色融解粒多・ 砂粒少 良 N5/ 灰	下層
336-4 礫	長 8.8 幅 3.9 厚 2.1 重 143.79	表面中心部に強い擦痕 (光沢有り) 断面三角状	10Y5/1 灰	下層
336-5 礫	長 16.1 幅 4.8 厚 4.2 重 340.0	破砕面多い 使用痕なし	10Y4/1 灰 粘板岩	下層

第4節 時期不明の遺構

(1) 掘立柱建物跡

時期不明の掘立柱建物跡は6棟確認された。古代の掘立柱建物跡とは異なり、細い小ピットが並び、柱筋も重んでいるものが多い。いずれも仮小屋などの簡素な建物跡であったと考えられる。

SB-79 (第337図)

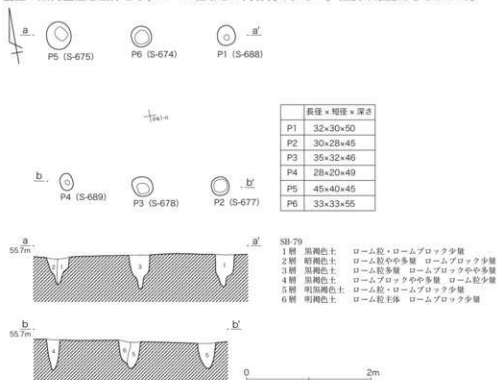
位置 P41 グリッドに位置する。規模・形状 2間×1間の東西棟で、南北長が2.3m、東西長が2.6mである。柱間は120～130cmとなっている。深さは40～55cmである。北側柱列は断面形が漏斗状になっているが、南側柱列の断面形は細いU字状である。覆土 黒褐色土を主体とする。P3とP5では柱痕状の土層が確認された。

SB-80 (第338図)

位置 P44 グリッドに位置する。規模・形状 1間×2間の南北棟で、南北長、東西長共に2.0mである。柱間は東西の柱列で90～100cmとなっている。隅柱のうちP4を除く3本(P1・P2・P5)の深さは50～60cmであるが、P4のみ32cmと浅くなっている。また、東西柱列の中間柱(P3・P6)は17～23cmで、隅柱に比べて浅い。覆土 黒褐色土を主体とし、ローム粒などの内容物は少ない。柱痕は確認できなかった。

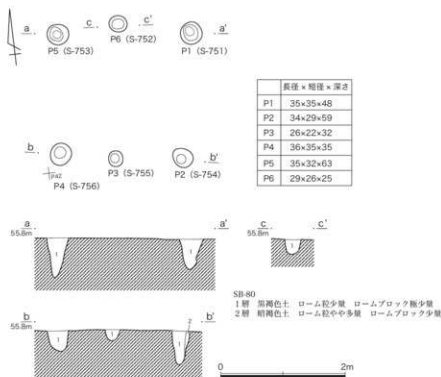
SB-81 (第339図)

位置 Q43・44 グリッドに位置する。重複関係はない。規模・形状 2間×1間の南北棟で、南北長3.7m、東西長2.1mである。柱間は南北の柱列で180～200cmとなっている。各隅柱(P1・P3・P4・P6)の深さは40～50cmで、南東隅柱(P3)のみ確認面自体が傾斜しているため30cmとやや浅い。南北柱列のうち、西側柱列の中間柱(P2)は隅柱とほぼ同じ深さ35cmであるが、東側柱列の中間柱(P5)は深さ20cmと浅い。覆土 黒褐色土を主体とし、ローム粒などの内容物は少ない。柱痕は確認できなかった。

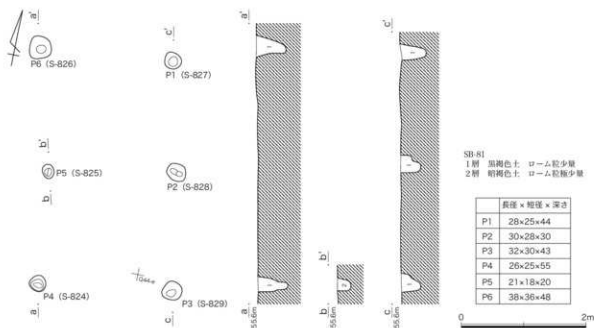


第337図 SB-79 掘立柱建物跡

第3章 発見された遺構と遺物



第338図 SB-80 掘立柱建物跡



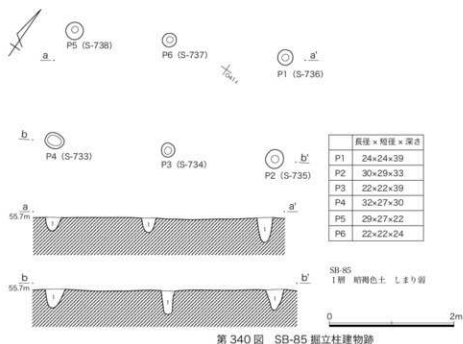
第339図 SB-81 掘立柱建物跡

SB-85 (第340図)

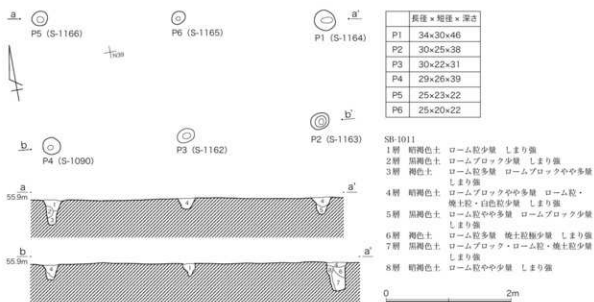
位置 南集落の南、O41グリッドに位置する。重複関係はない。

規模・形状 1間×2間の東西棟で、南北長1.8m、東西長3.5mである。柱間は東西の柱列で150～190cmである。柱穴の平面形は径20～26cmの円形である。深さはP1～P3が30～38cm、P4～P6が20～28cmである。

覆土 暗褐色土を主体とし、しまりは弱い。柱痕は確認されなかった。



第340図 SB-85 掘立柱建物跡

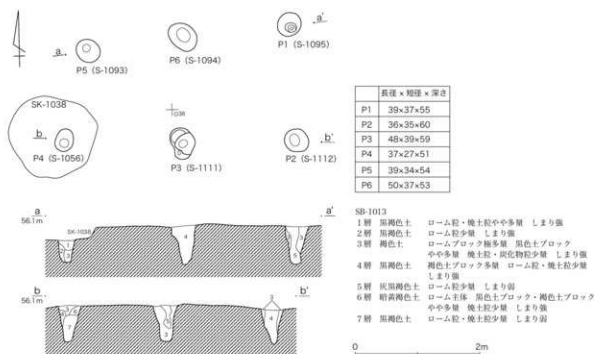


第341図 SB-1011 掘立柱建物跡

SB-1011 (第341図)

位置 N39 グリッドに位置する。重複関係はない。規模・形状 1間×2間の東西棟で、東西長が4.9m、南北長が2.5mであるが、東側柱列が短くなっているため歪んでいる。東西柱列の柱間は210～230cmである。柱の深さは各隅柱が22～46cm、中間柱が22cm、31cmである。P2とP5は掘り方がしっかりしているが、他の柱は小ピット状である。覆土 暗褐色土を主体とするが、P2とP5はロームブロックを多く含む褐色土も堆積している。柱痕は確認できなかった。

第3章 発見された遺構と遺物



第342図 SB-1013 掘立柱建物跡

SB-1013 (第342図)

位置 O38 グリッド杭を囲むように位置する。規模・形状 1間×2間の東西棟で、東西長が4.1m、南北長が2.2mであるが、西側柱列が短くなっているため歪んでいる。東西柱列の柱間は160～180cmである。柱の深さは50～60cmと一定している。覆土 黒褐色土を主体とし、P1・P2には柱痕状の土層が確認されている。

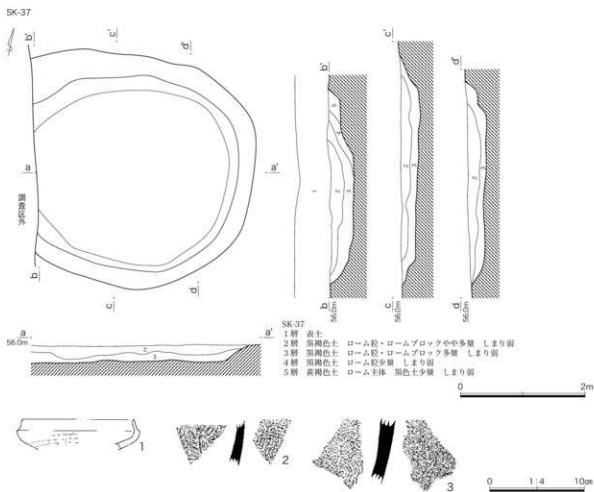
(2) 土坑・小ピット

時期不明の土坑・小ピットについては、覆土の分層が可能であったものについては平面図と断面図を掲載し、単層で埋没しているものについては区分図(第361～368図・第5節第380・384図)及び一覧表に掲載した。区分図には時期不明の遺構の他に、古墳～平安時代の井戸状遺構の一部と中世・近世の遺構が併せて掲載されている。

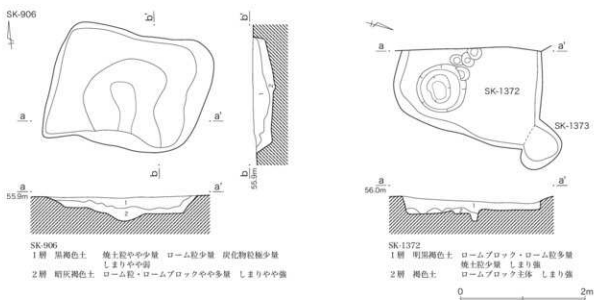
時期不明の土坑のうちのいわゆる長方形土坑は、J25からM27グリッド付近、K31からL32グリッド付近

第124表 SK-37 遺物観察表

NO. 種類 器種	出土 遺構	法量 (cm・g)	成形・調整方法 特徴/残存状態	胎土/焼成/色調	出土位置 /注記
343-1 土師器 坏	SK-37	口 (11.6) 大 (13.0) 高 (3.2)	(内) ヨコナデ (外) 口ヨコナデ割削いナデ 内面わずかに漆残る (残) 1/8 以下	微細白色粒子多 良 5YR3/1 黒褐	覆土
343-2 須恵器 甕	SK-37	破片	(内) 同心円状当て具痕 (外) 平行タタキ	砂礫・白色粒子小・ 砂粒やや多 良 5Y7/2 灰白	覆土
343-3 須恵器 甕	SK-37	破片	(内) 同心円状当て具痕 (外) 平行タタキ (浅い)	黒色融解粒多・白色 粒子やや多・砂礫小 やや良 7.5Y4/1 灰	覆土

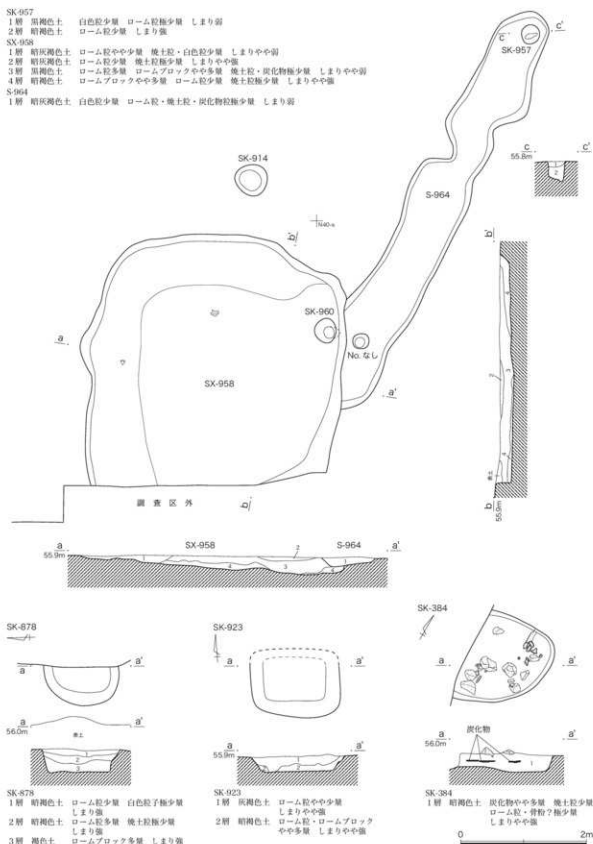


第343図 SK-37 土坑及び出土遺物

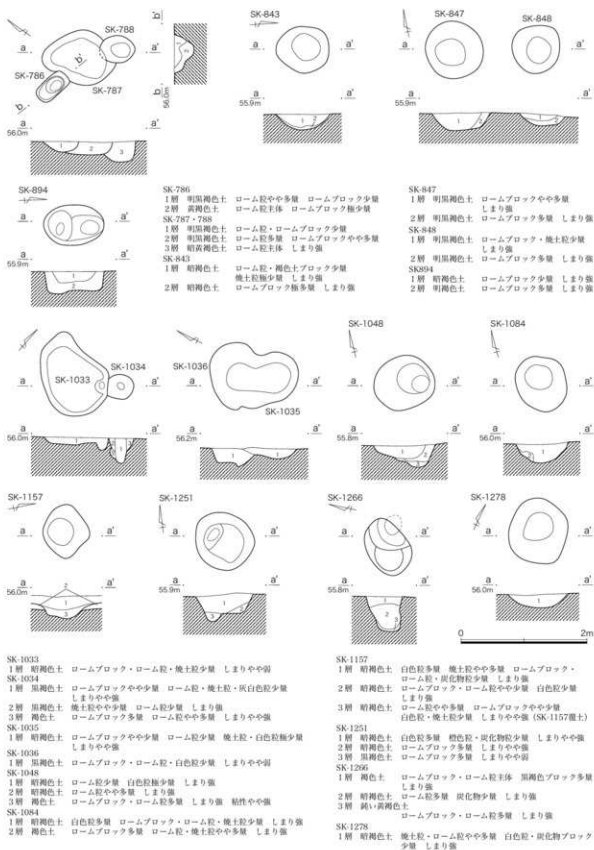


第344図 SK-906・1372

第3章 発見された遺構と遺物

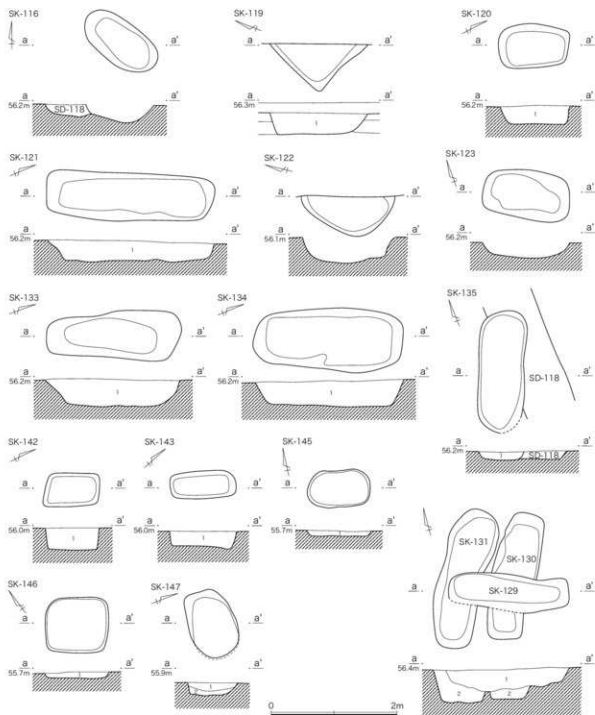


第345図 時期不明の遺構(1)



第346図 時期不明の遺構(2)

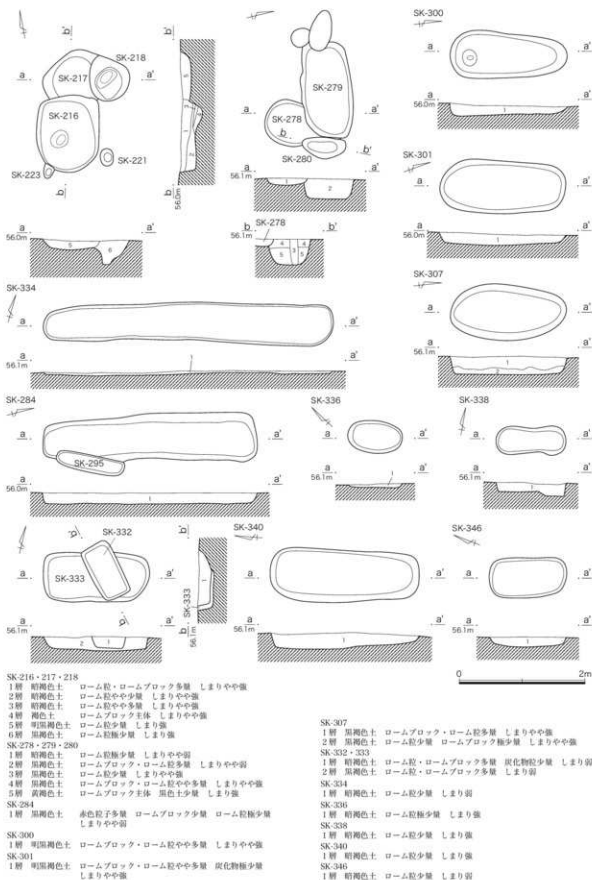
第3章 発見された遺構と遺物



- SK-119
1 層 暗褐色土 焼土粒やや多量 白色粒少量 しまり強
- SK-120
1 層 暗褐色土 炭化物粒・焼土粒・黒色土ブロック少量 しまりやや強
- SK-121
1 層 暗褐色土 炭化物粒・焼土粒少量 しまりやや強
- SK-129・130・131
1 層 暗褐色土 炭化物粒・焼土粒少量 しまりやや強
2 層 暗褐色土 黒色土ブロックやや多量 焼土粒少量 しまりやや強
- SK-133
1 層 暗褐色土 細粒な焼土・白色粒極少量 しまり強
- SK-134
1 層 暗褐色土 焼土粒・白色粒少量

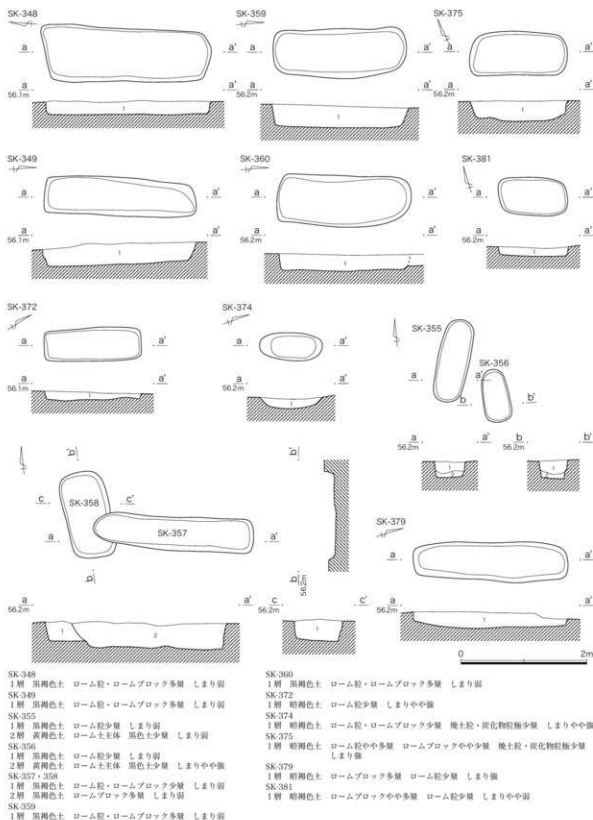
- SK-135
1 層 暗褐色土 焼土粒・白色粒極少量 しまり強
- SK-142
1 層 暗褐色土 ローム粒極少量 しまり強
- SK-143
1 層 暗褐色土 ローム粒多量 しまりやや強
- SK-145
1 層 褐色土 炭化物多量 焼土粒・ローム粒やや多量 しまり強
- SK-146
1 層 褐色土 焼土粒・ローム粒やや多量 しまりやや強
- SK-147
1 層 暗褐色土 焼土粒・ローム粒・炭化物粒極少量 しまり強
2 層 暗褐色土 炭化物極多量 ローム粒・焼土粒多量 しまりやや強

第 347 図 時期不明の遺構 (3)

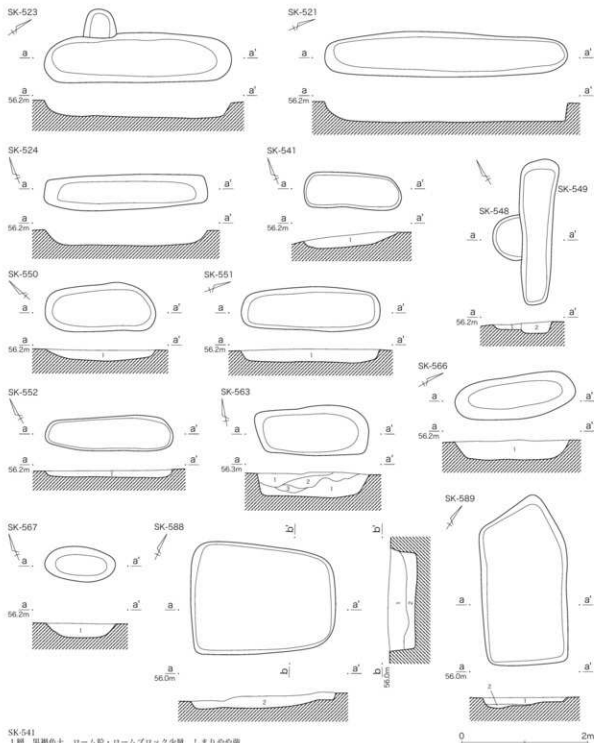


第348図 時期不明の遺構(4)

第3章 発見された遺構と遺物



第349図 時期不明の遺構(5)

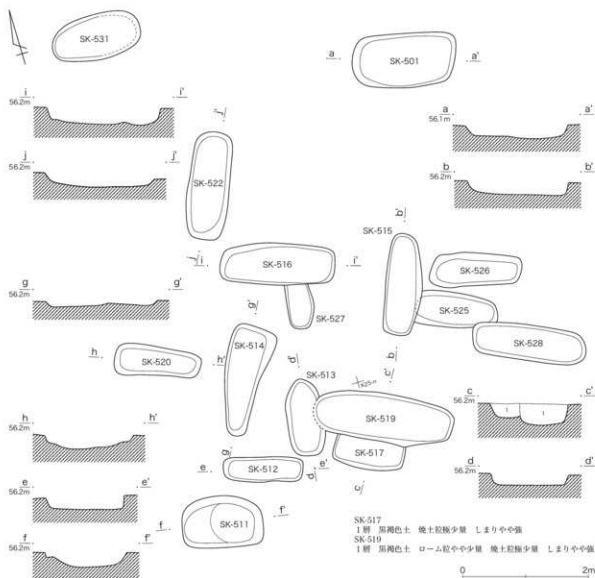


- SK-541
1層 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック少量 しまりやや強
- SK-548・549
1層 褐色土 ロームブロック・ローム粒やや多量 しまり強
2層 黒褐色土 ローム粒少量 しまり強
- SK-550
1層 黒褐色土 ローム粒少量 焼土粒極少量 しまりやや強
- SK-551
1層 黒褐色土 ロームブロック・ローム粒極少量 しまりやや強
- SK-552
1層 黒褐色土 ほとんど内容物を含まない しまりやや弱
- SK-563
1層 暗褐色土 ロームブロック極多量 しまりやや強
2層 暗褐色土 ローム粒多量 焼土粒少量 しまり強
3層 暗褐色土 ロームブロック少量 しまりやや強

- SK-566
1層 暗褐色土 焼土粒少量 しまり強
- SK-567
1層 暗褐色土 焼土粒少量 しまり強
- SK-588
1層 暗褐色土 火山灰状の白色粒子多量 炭化物粒・焼土粒少量 しまり強
2層 暗褐色土 1層をまだらに含む 炭化物粒・焼土粒・ロームブロック少量 しまり強
- SK-589
1層 暗褐色土 茶褐色土ブロック・ロームブロック多量 焼土粒やや多量 白色粒少量 しまりやや強
2層 暗褐色土 2層にロームブロックを極多く含む しまり極強

第350図 時期不明の遺構 (6)

第3章 発見された遺構と遺物

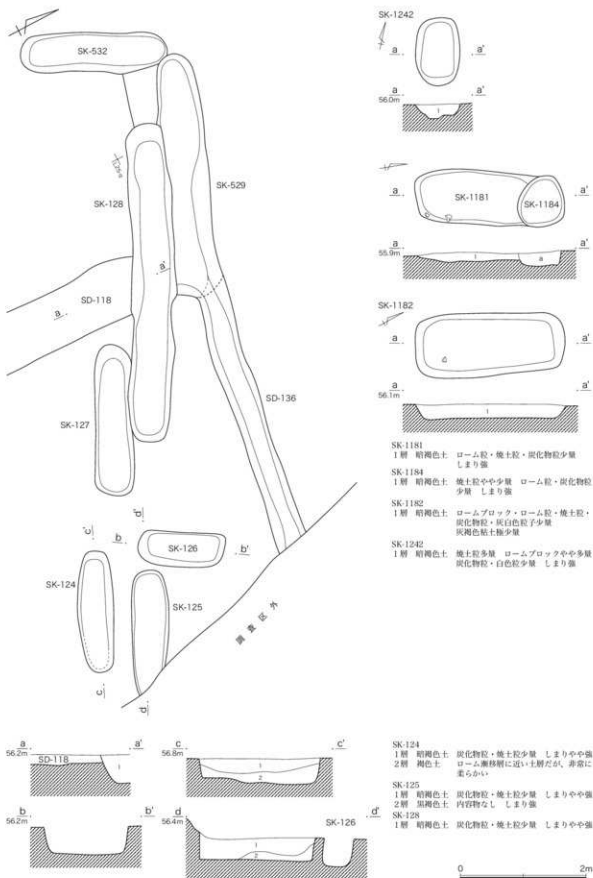


第351図 時期不明の遺構（7）

に特に集中する部分があり、その他は散在している。J25 から M27 グリッド付近では、SD-140 と SD-361 によって囲まれた区画の中に集中して確認されており、長軸方向もいずれかの溝状遺構の方向に沿っている。また、SD-361 に沿った状態で円形土坑が並んで確認されている。K31 から L32 グリッド付近では、SD-115・154・1187 によって囲まれた区画の中に集中しているが、長軸方向は溝の方向とは若干ずれている。これらの覆土は、SD-600 溝状遺構の掘り返し部分の土層（2層）と似るものが多い。

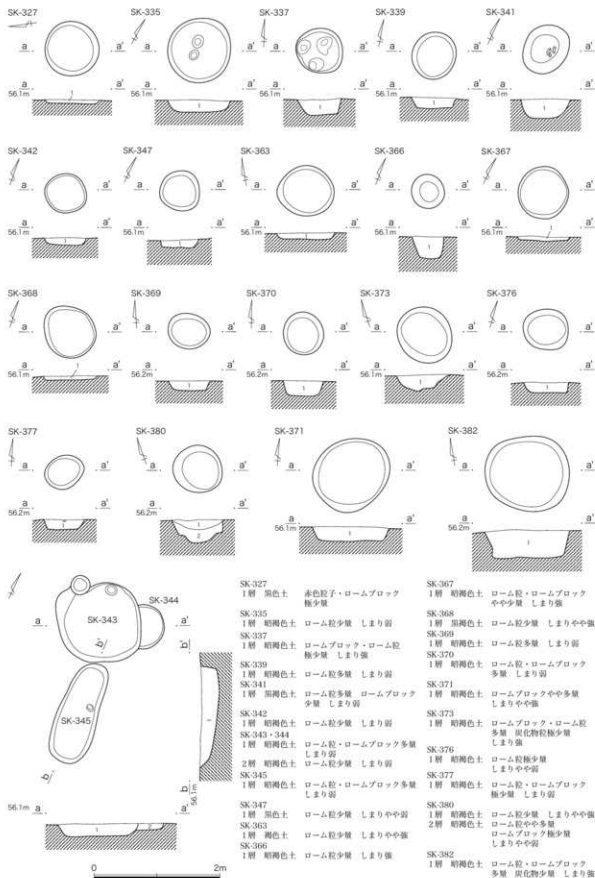
他の特徴的な土坑としては、大規模な掘り方を持つ SK-37、SK-906、SX-958、SX-1189 などがある。これらは遺物がほとんど出土せず、用途も不明の遺構である。SK-37 の覆土中からは遺物が出土しているが、いずれも小片であるため、遺構の時期を判断する要素とは考えにくい。

小ピットは群在する傾向があり、特に集中しているのは J29・30 グリッド付近、J31 から L34 グリッド付近、O39 から Q40 グリッド付近、O42・P42 グリッド付近である。SD-101 溝状遺構より北側では、ピット状遺構はほとんど確認されていない。また、SD-102・106 よりも北で確認されているピット状遺構の中には、掘立柱建物や柵列などに組むものはない。

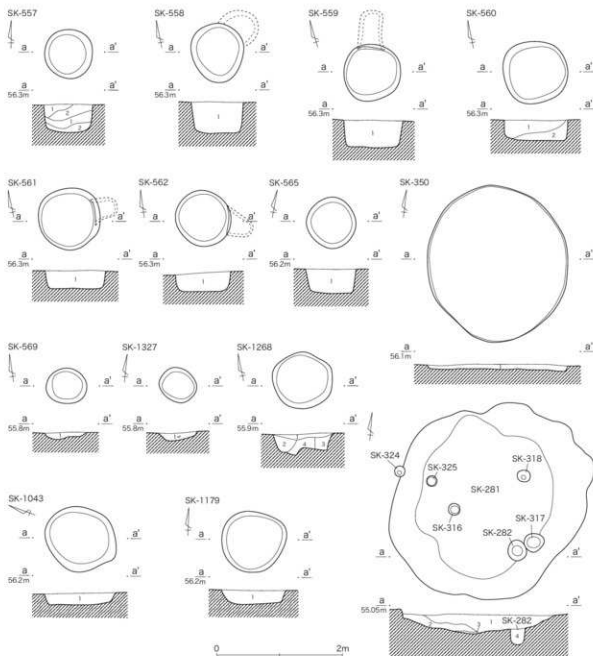


第352図 時期不明の遺構(8)

第3章 発見された遺構と遺物



第353図 時期不明の遺構 (9)

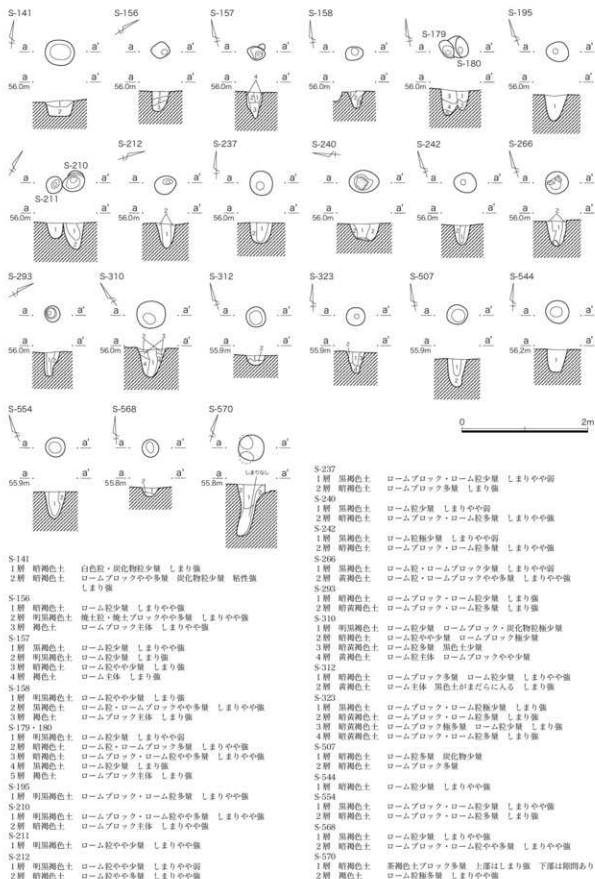


- SK-281
1 層 明褐色土 ローム粒多量 赤色粒子少量 ロームブロック極少量
2 層 暗褐色土 ロームブロック多量 ローム粒少量 しまり強
3 層 褐色土 SD-114度土と一緒
4 層 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック多量 (SK-282)
- SK-350
1 層 暗褐色土 ローム粒・焼土粒少量 しまりやや強
- SK-557
1 層 暗褐色土 ロームブロック極多量 しまりやや強
- SK-559
1 層 暗褐色土 ロームブロック多量 しまりやや強
- SK-560
1 層 暗褐色土 ローム粒多量 焼土粒少量 しまり強
- SK-561
1 層 暗褐色土 ロームブロック極多量 しまりやや強

- SK-562
1 層 暗褐色土 ロームブロック極多量 しまりやや強
- SK-565
1 層 暗褐色土 茶褐色土ブロックやや少量 焼土粒少量 ロームブロック極少量 しまり強
- SK-569
1 層 黒褐色土 ローム粒少量 しまりやや強
- SK-1043
1 層 暗褐色土 白色粒やや多量 焼土粒・ローム粒極少量 しまり強
- SK-1179
1 層 暗褐色土 白色細粒やや多量 ローム粒・焼土粒少量 灰褐色粘土ブロック極少量 しまり強
- SK-1268
1 層 暗褐色土 白色粒多量 焼土粒少量 しまり強
2 層 褐色土 下部に茶褐色ブロック多量 しまり強
3 層 褐色土 ローム粒多量 しまり強
4 層 褐色土 ロームを底状に含む しまり極強
- SK-1327
1 層 暗褐色土 焼土粒多量 炭化物少量 しまり極強

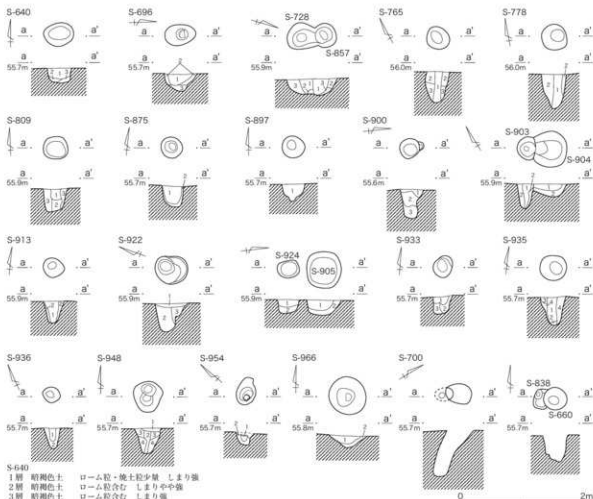
第354図 時期不明の遺構 (10)

第3章 発見された遺構と遺物



第355図 時期不明の遺構 (11)

第4節 時期不明の遺構

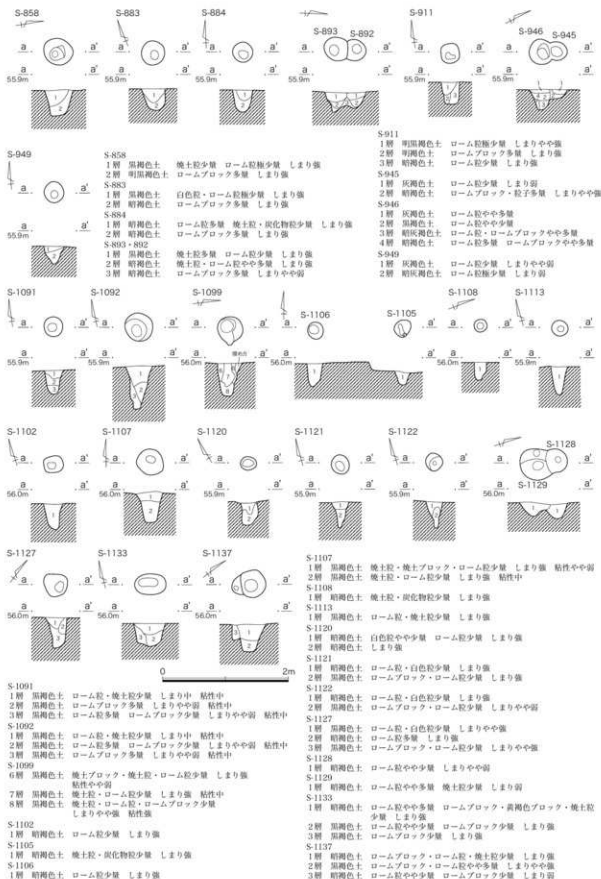


S-69	1層 暗褐色土	ローム殻・焼土粒少量	しまり強
	2層 暗褐色土	ローム殻含む	しまりやや強
	3層 暗褐色土	ローム殻含む	しまりやや強
S-696	1層 黒褐色土	ローム殻やや多量	ロームブロック稀少
	2層 黄褐色土	ロームブロック主体	
	3層 褐色土	ロームブロック少量	しまり良
S-728	1層 暗褐色土	ローム粒少量	しまり強
	2層 明褐色土	ロームブロック多量	しまり強
	3層 ローム土	ロームブロック多量	しまり強
S-765	1層 明暗褐色土	焼土粒少量	ローム粒少量
	2層 暗褐色土	ローム粒やや多量	ロームブロック少量
	3層 黒褐色土	ローム殻・ロームブロック少量	
S-778	1層 明暗褐色土	ローム粒少量	ロームブロック稀少
	2層 褐色土	ローム粒少量	ロームブロック稀少
S-809	1層 暗暗褐色土	ローム殻少量	焼土粒少量
	2層 暗褐色土	ローム粒やや多量	ロームブロック少量
	3層 暗褐色土	ローム粒少量	しまり強
S-857	1層 暗暗褐色土	ローム粒やや多量	しまり強
	2層 明暗褐色土	ローム粒少量	しまり強
	3層 明褐色土	ロームブロック多量	しまり強
S-875	1層 暗褐色土	ローム殻・焼土粒多量	しまりやや弱
	2層 暗褐色土	ロームブロック多量	しまり強
S-897	1層 暗褐色土	褐色土ブロック多量	ローム殻・焼土粒少量
S-900	1層 暗褐色土	ローム粒少量	しまり強
	2層 暗褐色土	ローム粒少量	焼土粒少量
	3層 暗褐色土	ロームブロック多量	しまりやや強
S-903	1層 黒褐色土	ローム粒少量	焼土粒少量
	2層 暗暗褐色土	ローム粒やや多量	ロームブロック少量
S-904	1層 暗暗褐色土	ローム粒少量	白色粒少量
	2層 暗暗褐色土	ローム粒やや多量	ロームブロック少量
	3層 暗暗褐色土	ローム粒少量	しまりやや強

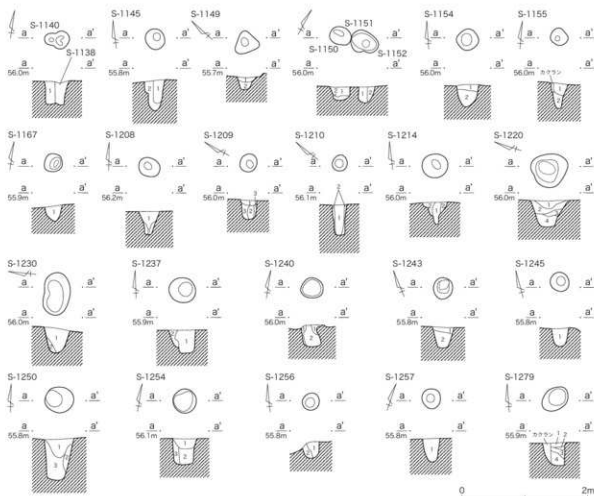
S 905			
1 株	黒褐色土	ローム段土極少	しまりやや強
2 株	暗褐色土	ローム段土少	ロームブロック極少
S 913			
1 株	黒褐色土	ローム段、焼土段少	ロームブロック、炭化物粒極少
2 株	暗褐色土	ローム段、焼土少	ロームブロック少
S 921			
1 株	明褐色土	ロームブロック極少	しまりやや弱
2 株	褐色土	ロームブロック少	焼土段極少
3 株	明褐色土	ロームブロック多	しまり強
S 924			
1 株	暗灰褐色土	ローム段少	焼土段極少
2 株	褐色土	ローム段多	しまりやや強
S 933			
1 株	黒褐色土	ローム段少	ロームブロック極少
2 株	暗灰褐色土	ロームブロック多	ローム段やや強
3 株	暗褐色土	ローム段、ロームブロック少	しまりやや強
S 935			
1 株	褐色土	ローム段、焼土段極少	しまりやや強
2 株	黒色土	しまり強	
3 株	灰褐色土	ローム段少	ロームブロック極少
4 株	暗褐色土	ローム段、ロームブロック少	焼土段極少
		しまりやや弱	
S 936			
1 株	暗褐色土	ローム段極少	しまりやや弱
2 株	暗灰褐色土	ローム段やや多	ロームブロック少
S 948			
1 株	暗灰褐色土	ローム段、焼土段極少	しまり強
2 株	黒色土	ローム段極少	しまり弱
3 株	暗褐色土	ローム段やや多	ロームブロック少
4 株	暗褐色土	ローム段、ロームブロック多	しまりやや強
S 954			
1 株	褐色土	ローム段少	しまりやや弱
2 株	暗褐色土	ロームブロック多	しまり強
S 966			
1 株	暗茶褐色土	白色砂粒やや多	ローム段少
		焼土段、炭化物粒極少	しまりやや弱
2 株	暗褐色土	ローム段やや多	白色粒極少

第 356 図 時期不明の遺構 (12)

第3章 発見された遺構と遺物

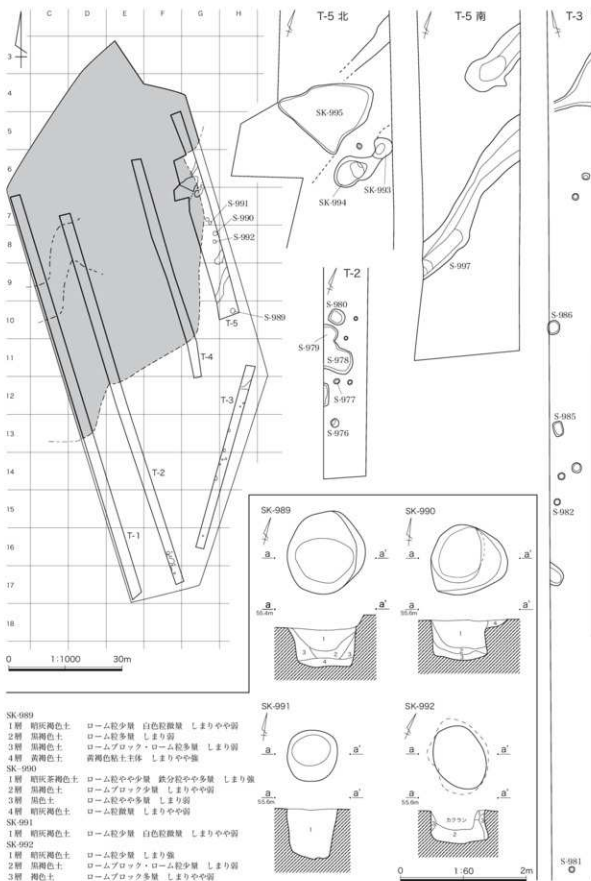


第357図 時期不明の遺構(13)



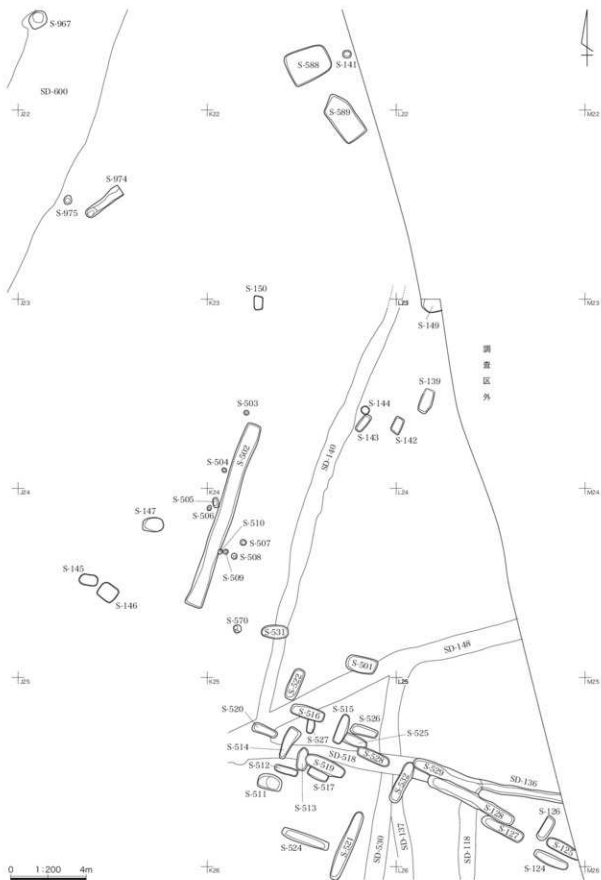
- S-1140
1層 褐色土 堆山の土に褐色土ブロックが3~4個ほど しまりやや強
- S-1145
1層 黒褐色土 ロームブロック・ローム粒・焼土粒・白色粒少量 しまり強
2層 暗褐色土 ローム粒やや多量 ロームブロックやや少量 しまり強
- S-1149
1層 暗褐色土 ローム粒多量 ロームブロック・焼土粒少量 しまり強
2層 暗褐色土 ローム粒やや多量 ロームブロック少量
- S-1150
1層 暗褐色土 ロームブロック・ローム粒多量 白色粒少量 しまり強
2層 褐色土 ロームブロック・ローム粒主体 しまりやや弱
- S-1151, 1152
1層 暗褐色土 焼土粒やや多量 ロームブロック・ローム粒・炭化物粒少量 しまり強
2層 暗褐色土 ローム粒多量 ロームブロック少量 しまり強
- S-1154
1層 褐色土 ロームブロック・ローム粒やや多量 炭化物粒・ブロック・焼土粒少量 しまり強
2層 暗褐色土 ロームブロック・ローム粒やや少量 焼土粒・炭化物粒少量 しまりやや強
- S-1155
1層 暗褐色土 ローム粒・白色粒少量 焼土粒極少量 しまり強
2層 暗褐色土 ロームブロック・ローム粒やや多量 しまりやや弱
- S-1167
1層 暗褐色土 ローム粒やや少量 焼土粒・白色粒少量 しまり強
- S-1208
1層 暗褐色土 ローム粒多量 炭化物粒少量 しまり強
2層 暗褐色土 ロームブロック・ローム粒主体 しまり強
- S-1209
1層 暗褐色土 ローム粒多量 焼土粒・炭化物粒少量 しまり強
2層 暗褐色土 ローム粒やや多量 ロームブロック少量 しまりやや強
- S-1210
1層 暗褐色土 ローム粒・焼土粒・炭化物粒少量 しまりやや強
2層 暗褐色土 ローム粒多量 ロームブロックやや多量 しまり強
- S-1214
1層 暗褐色土 ローム粒極少量 しまり強
2層 暗褐色土 ロームブロック・ローム粒多量 しまり強
- S-1245
1層 暗褐色土 ロームブロック・新褐色土多量 しまり強
- S-1250
1層 暗褐色土 ロームブロック多量 しまりやや強
2層 暗褐色土 ロームブロック多量 しまりやや強
3層 暗褐色土 ロームブロック少量 しまりやや弱
- S-1254
1層 暗褐色土 ローム粒・白色粒やや多量 しまり強
2層 暗褐色土 ロームブロックやや多量 ローム粒・白色粒少量 しまり強
3層 褐色土 ロームブロック多量 しまりやや強
- S-1256
1層 暗褐色土 ローム粒少量 しまり強
2層 暗褐色土 ロームブロック・ローム粒多量 しまり弱
- S-1257
1層 暗褐色土 ロームブロック・ローム粒少量 しまり強
- S-1279
1層 褐色土 ローム粒・白色粒多量 しまり極強
2層 暗褐色土 ローム粒やや多量 微細な白色粒少量 しまり強
3層 褐色土 新褐色土主体 ローム粒多量 しまりやや強
4層 暗褐色土 ローム粒多量 ロームブロック少量 しまり強

第358図 時期不明の遺構 (14)



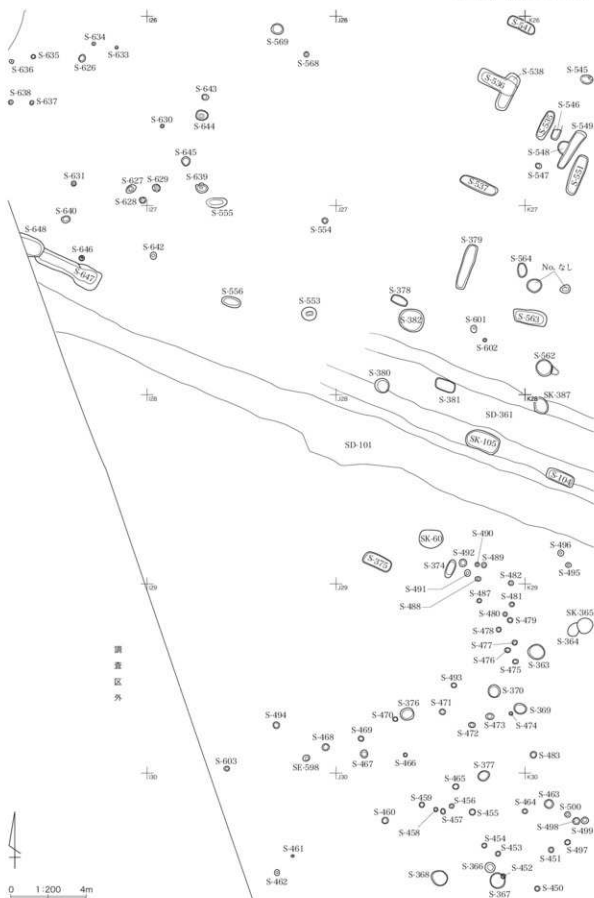
第360図 H14年度試掘調査区の遺構

第3章 発見された遺構と遺物

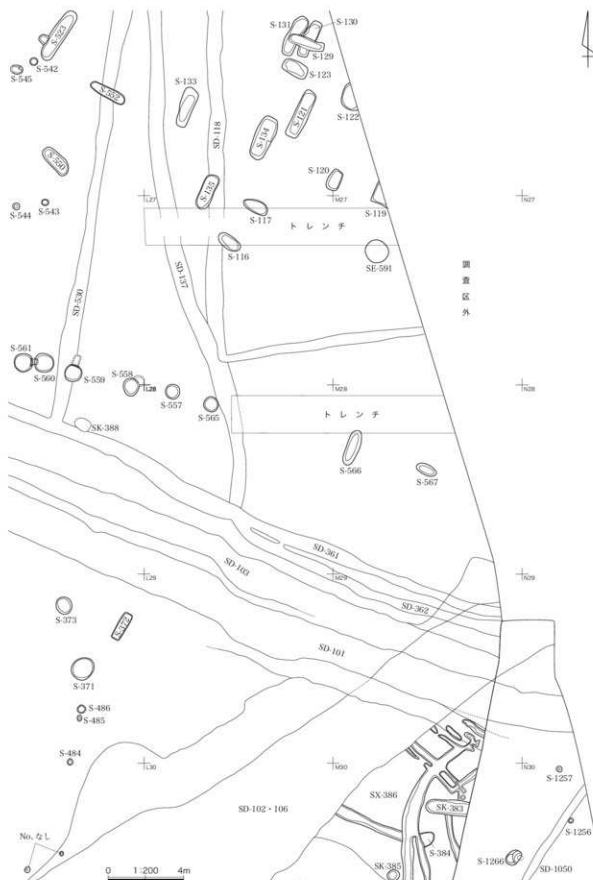


第 361 図 時期不明の遺構区分図 (1)

第4節 時期不明の遺構

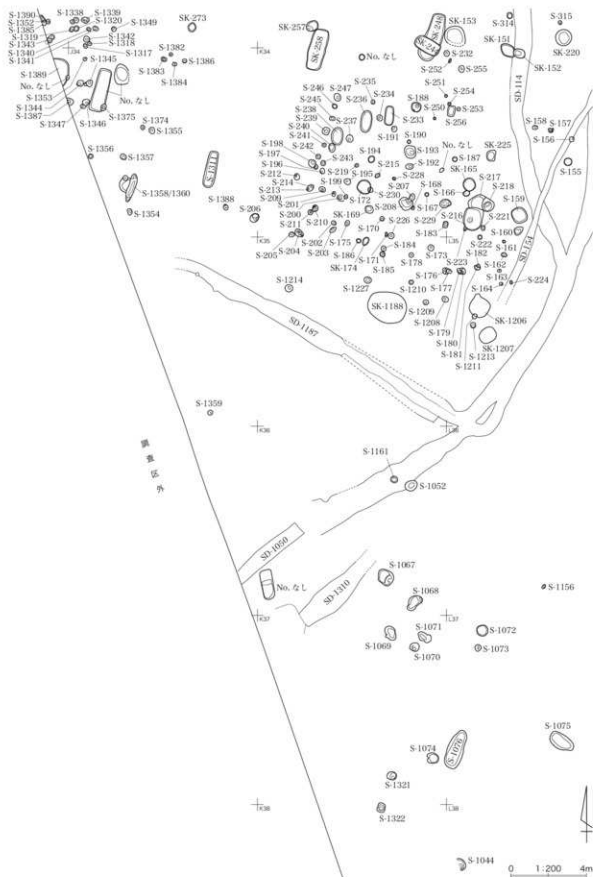


第 362 図 時期不明の遺構区分図 (2)

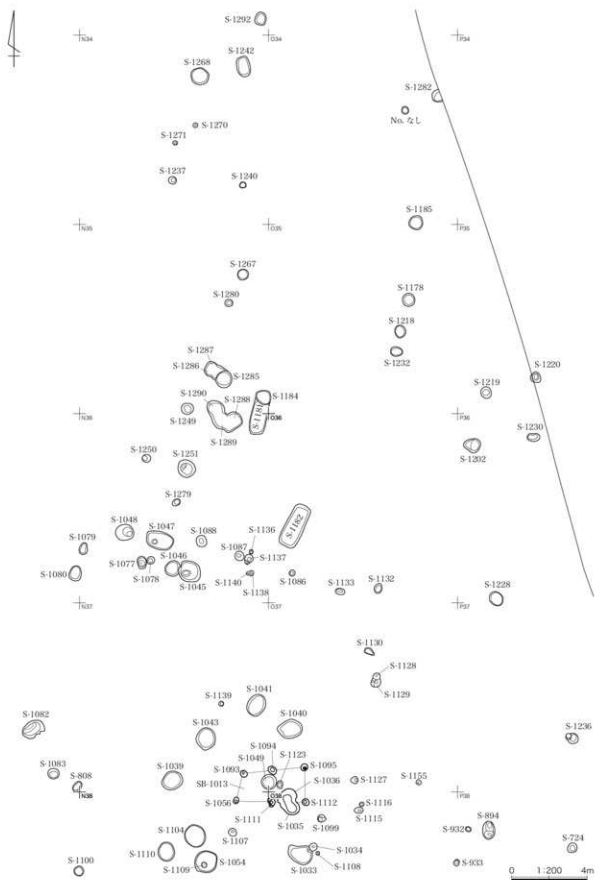


第363図 時期不明の遺構区分図(3)

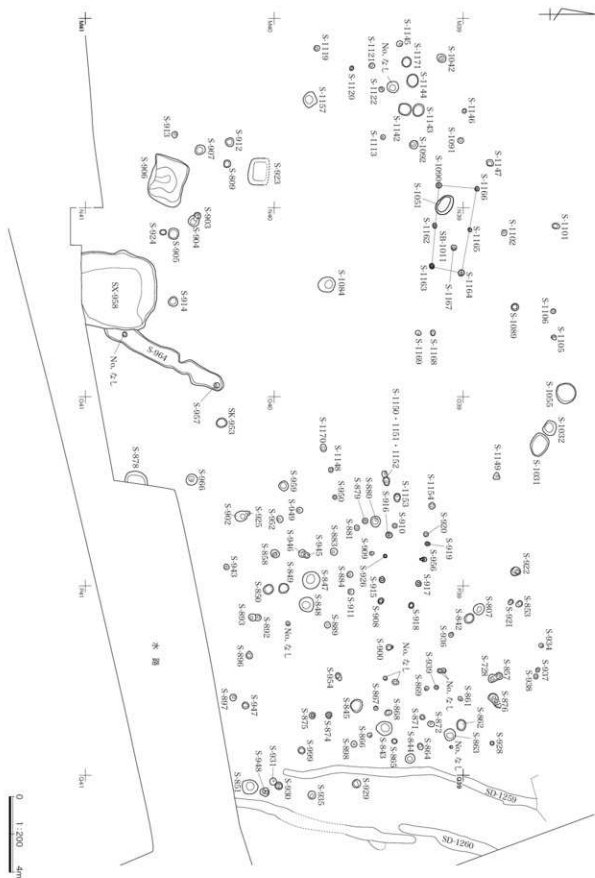
第3章 発見された遺構と遺物



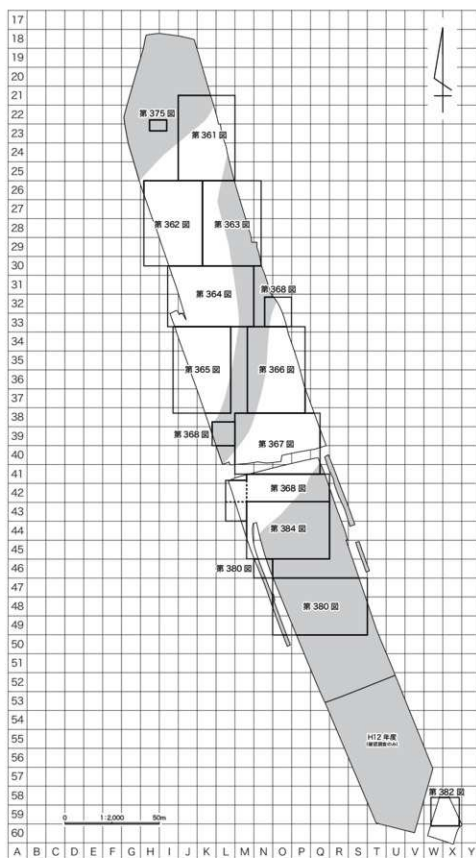
第365図 時期不明の遺構区分図(5)



第 366 図 時期不明の遺構区分図 (6)



第 367 図 時期不明の遺構区分図 (7)



第369図 時期不明の遺構 掲載図版位置図